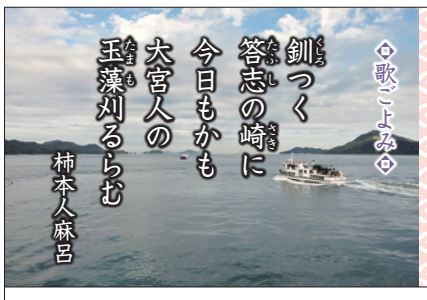


皇學館

学園報 第73号

発行・編集
学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大　学　大学院　専攻科　文学部　教育学部　現代日本社会学部
〒516-8555
三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201㈹　FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
［高校］〒516-8577　TEL 0596-22-0205㈹
［中学］〒516-8588　TEL 0596-23-1398㈹

■注目記事
2面
卒業生随想
3面
高・中で卒業式
「羽前大瀧家伝来　鈴木重胤先生関係資料」の寄贈について
4面
就職者VOICE
5面
地域連携トピックスVol.6
平成29年度CLL活動報告会を開催　ほか
6面
初の全国大会出場で銀賞
第41回全国アンサンブルコンテスト・金管八重奏の部　ほか
7面
教学振興会寄付者芳名
8面
教育学科有志・第32回卒業記念ミュージカルを開催
■Kらいふ（全学一体第164号）
退任によせて　ほか

平成二十九年度 学位記・修了証書授与式
華やかに、六九九名が新たな門出

三月十九日、記念講堂において平成二十九年度の学位記・修了証書授与式が行われた。三学部合計六七〇名、神道学専攻科一五名、大学院一四名の計六九九名が、晴れやかな笑顔で社会へと巣立った。

地域連携・学修カリキュラム 一期生が社会へ

花曇りの穏やかな日、心配された雨も午前中は降らず、キャンパスの中は華やかな袴姿や凛々しいスーツ姿の学生であふれた。卒業生らは、早朝から神宮参拝（外宮・内宮）を済ませ、とくに内宮では御垣内参拝を許され、卒業を大御神に奉告した。

授与式は午前十一時半に始まった。国歌斉唱、令旨奉読に続き、博士学位授与者、博士前期課程並びに修士課程修了者、神道学専攻科修了者及び三学部卒業者の代表ら計十一名が登壇し、学位記・修了証書を受け取った。続いて恩賜奨学賞、大宮司賞などの受賞者十名に賞状と記念品が手渡された。

本学では地域貢献活動を通して社会的知性を養い、地域のために自ら考え行動する人材を育成する教育プログラムを推進しており、今年の卒業生は、その学修カリキュラムに参画した第一期生となる。清水潔学長は式辞の中で、我が国を取り巻く国際情勢やAIによる産業構造の変化、少子高齢化、地方の衰退、人間関係の希薄化といった国が直面する複雑な課題などを挙げたうえで、「四年間で学び得たところを如何なく、惜しみなく発揮してほしい。艱難は神が与えた試練と受け止め、また才に溺れることなく敬虔な気持ちを忘れないで」と激励した。またこれからそれぞれの職業に就く卒業生たちに向けて、「職業に携わる際に重要なのは『出処進退』である。出処進退を誤らないためには、平素から心を養い、自己中心的になっていないかを反省し、他を思いやり、学問を続けることが重要である」とアドバイスした。

続く祝辞では、神宮大宮司小松揮世久氏が「大御神様の御神徳のもと、伊勢で過ごされた日々の記憶は、いかなる環境においても皆さんの人生の指針となる。感謝と調和の心を忘れず、幅広い視野で何事にも積極的に挑戦していただきたい」とはなむけの言葉を贈った。

清水学長より恩賜奨学賞を受け取る原田さん（国文学科）

厳かな雰囲気の中、神域を進む学生たち

専門性を深め、視野を広げた四年間の学びを生かす

恩賜奨学賞を受けた国文学科の原田萌有瑠さんは、出身地である岐阜の高校で国語・書道の講師となる。「万葉集ゼミに所属し、古典や日本の伝統文化への専門性を高めた。和歌や俳句の楽しさを生徒に伝えられる先生になりたい」と明るい笑顔で語った。大宮司賞を受けた現代日本社会学科の大谷愛乃さんは、第一志望の自動車の販売会社で営業職に就く。「高校生レストランの仕掛け人の一人である岸川先生をはじめ、地域で活躍される方を招いた授業で視野が広がった。仕事を通じて地域にも役立つ人材になりたい」と語った。同じく大宮司賞を受け、福岡県護国神社に奉職する神道学科の江﨑義訓さんは「伊勢神宮の月次祭に臨時出仕した経験が印象深く、二千年以上の歴史の中に自分が連なっていることを体感した。地方から日本を元気にできる神職になりたい」と語った。理事長賞を受けた国史学科の井村直暉さんは地元・松阪市の小学校で講師として教壇に立つ。「奇術部に所属し、幼稚園や老人ホームなどを慰問した。地域の人と触れ合うなかで、コミュニケーションなどを学んだ。生徒が抱える問題に寄り添って一緒に解決していけるような先生になりたい」と抱負を語った。

大谷愛乃さん

原田萌有瑠さん

井村直暉さん

江﨑義訓さん

平成29年度 学位記・修了証書授与式 受賞者等一覧

博士	乙号（論文博士）	林　﨑　治　恵
	文学研究科国文学専攻博士後期課程	河　合　重　好
総代	文学研究科国史学専攻博士前期課程	梅　田　優　歩
	教育学研究科教育学専攻修士課程	矢　野　壮　馬
	神道学専攻科	三　田　雄　士
	文学部神道学科	飯　田　　航
	文学部国文学科	橋　あずさ
	文学部国史学科	谷　口　　優
	文学部コミュニケーション学科	谷　川　綾　香
	教育学部教育学科	福　井　菜　央
	現代日本社会学部現代日本社会学科	井　坂　僚　介
恩賜奨学賞	文学部国文学科	原　田　萌有瑠
大宮司賞	文学部神道学科	江　﨑　義　訓
	教育学部教育学科	森　　緑
	現代日本社会学部現代日本社会学科	大　谷　愛　乃
理事長賞	文学部国史学科	井　村　直　暉
学長賞	文学部コミュニケーション学科	橋　本　真梨子
統理賞	神道学専攻科	塩　見　主　税
	文学部神道学科	西　田　日向子
長谷奨学賞	文学部神道学科	阿　竹　健　二
	文学部国史学科	森　　晴　菜
送辞	文学部神道学科３年	中　村　勇　貴
答辞	文学部国文学科	武　田　佳　子
社会福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰		
	現代日本社会学部現代日本社会学科	鶴　田　千　貴
精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰		
	現代日本社会学部現代日本社会学科	竹　中　祐　雅
保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰		
	教育学部教育学科	福　井　菜　央

倉田山春秋

大学の教育改革は授業改善のための授業評価から始まり、現在は学習効果の測定をめざしている。その指標の一つがコンピテンシーである▼不確実性が高く状況が次々と変化する現代の社会においては、コンピテンシーと呼ばれる主体性や協働性の力を身につけることが重要だとされる▼しかし、困ったことにコンピテンシーと従来の大学教育との関係は希薄。つまり、学業成績が良いことと協働性があることは比例しないということになっている▼これまでの教育方法を踏襲していては、将来を生き抜く学士力はつかないということになるから、質の保証ができず、大学としての社会的責任を果たせないことになる▼それでは、コンピテンシーを身につけさせるにはどうすればよいのか▼その方法としては、実践的な経験を積み、それを汎用化する力を養うことが有効である。本学では、地（知）の拠点整備事業で取り組んできたCLL活動などがこれにあたる▼コンピテンシー能力の高い学生諸君の実感と自信こそが、将来の大学の評価へつながる。教育の現場に急激な改革は馴染まないが、着実に黽勉努力を続けたい。

卒業生随想

春からそれぞれの志す道を歩き始める卒業生たち。学生生活を振り返り、彼らの胸中に去来するさまざまな思いを語ってもらった。

「志を立てて以て、万事の源となす」

神道学科　飯田　航　奉職先　平安神宮

この四年間は長いようで短かったように思う。振り返ればあっという間であるが、その内容は実に凝縮されたものであった。

この四年間を振り返るにあたり、大学生活において、何をすべきかという問いに答えを出すならば、吉田松陰の「志を立てて以て、万事の源となす」という言葉がふさわしいであろう。まず志を持つことだ。生涯を貫く志を立てることで自分の根幹となるものを固める。次に、それを目指すにあたり必要となる知識や思想を養い、これを元に行動に移す。これが枝や葉にあたる。しかし、必ず困難が訪れるのが世の常である。これを乗り越えられるか否かは志の有無に関係してくるのではないか。例え風雨にさらされ、枝葉がなくなろうとも、根幹がしっかりとしていれば、その木が倒れることはないのである。さすれば、人も同様に確固たる志を持つことが肝要であると考える。そして、すべてが揃ったときにその木には花が咲き誇るのではないか。私は山桜を咲かせてみたい。

この皇學館大学で過ごした日々は一生の宝となると思う。私に素晴らしい学生生活と夢をくださった先人、先生方、家族や友人、そして神恩に感謝の意を表する。

支えあってこその成長

教育学科　宮澤　謙吾　就職先　小学校（三重県）

いよいよ大学生活が始まるという喜びと、不安を胸に迎えた入学式。あれからもう四年が経ってしまったとは、月日が経つのは早いものだと感じている。遂に学生生活も終わりを迎え、社会人として旅立つ事となった。思えばこの四年間は、多くの経験をし、非常に充実した時間であった。楽しい出来事だけでなく、試験や課題等に必死で取り組んだ事も、今となっては良い思い出である。

この四年間で、特に教員採用試験と卒業論文は私を大いに苦しめ、成長させてくれた課題であった。私は決して要領が良い方では無い。しかし、目の前の課題に真摯に、精一杯取り組む事をこの四年間一貫して続けてきた。

卒業論文は、教採の勉強時間の事を考え、三年生の夏休みから研究を始めた。資料集めの為に長野県へ足繁く通い、小学校や歴史研究所の方々のお力をお借りしながら、確実な一次資料を収集した。教員採用試験は、二年生の秋に参考書を購入し、地道にこつこつと勉強を続け、試験直前の二週間は、寝る間を惜しんで勉強をした。こうした努力が最高の結果に繋がった事は、自分にとって大きな自信となった。

このように多くの課題を乗り越え、自分の成長に繋げることが出来たのも、素晴らしい恩師や最高の仲間達の支えがあったからである。この出逢いへの感謝の気持ちを忘れず、これからも一社会人として、努力を続けていきたい。

支えられ、充実した日々

国文学科　磯田　真由　就職先　株式会社福寿軒

皇學館大学で過ごした四年間。部活動、学科の学び、ゼミ活動など、語りつくせないほど様々な出来事があった。

四年間の集大成である卒業論文では、『源氏物語』について研究をした。悩んだ時はゼミのメンバーと相談し合うこともあった。話をしていると、それぞれが登場人物に感情移入したり、光源氏を勝手に評価したり、どんどん話が膨らみ笑いが絶えなかったことが思い出される。卒業論文を書いていた期間は大変だったはずなのに、今では、皆と集まり話し合った日常が記憶に残り、戻りたいと思わせるほどだ。

このような充実した日を過ごせたのは、たくさんの人々の支えによるものだと強く感じている。お世話になった先生方、大学で出会った多くの友人、そして大学に進む道を選ばせてくれた両親、全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいだ。この想いを胸に、今後も大学生活に負けないくらい素晴らしい日々になるよう努力していきたい。

いつでも相談できた環境に感謝

現代日本社会学科　竹中　祐雅　就職先　社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会

私の大学生活は、多くの方に支えられ、助けられてきた。そのため、とても充実した日々を送ることができ、自分自身大きく成長することができたと感じている。

自分の所属していた世代間交流研究部会は、友人から誘われ活動を始めた。その際、教授に気軽に相談することができ、運営場所の提供やまちづくり協議会の方を紹介していただけたことなど様々な手助けをしてくださったことで、活動の試行段階は成功することができ、世代間交流研究部会を立ち上げることができた。

また、「社会福祉士」「精神保健福祉士」の実習において教授や実習担当者の方にいつでも気軽に相談できる環境が作られていたために、安心して実習に臨むことができた。これにより、自分自身も努力することができ、より成長することができたと実感した。

この大学生活は、大変なことも多かったがその都度気軽に相談できる人がおり、助けてくださったことが自分の心の支えとなった。そのことに感謝をするとともに、その気持ちを忘れずに今後もますます努力し、社協の職員として多くの地域の方と支え合い、助け合えるようにしていきたい。

恩を忘れず、神明奉仕に勤しむ

国史学科　森　晴菜　奉職先　宇佐神宮

皇學館大学に入学して四年が経った。今思い返すと本当にあっという間で、しかしながら私の中には四年間分の思い出が確かに存在している。

国史学科では、史料の批判に基づいた公正な歴史研究の仕方を中心に学んだ。我が国の歴史を紐解く史料は膨大に存在しており、その全てが正しいということはない。そのために時代の背景を考察し、複数の史料を比べて吟味する必要がある。その視点はそれまで「日本史」しか勉強してこなかった私にとって正に目から鱗であった。また、学芸員・神職課程の履修によって、より幅広い学びを得ることができた。それぞれの実習において多くのことを体験し、それは私の財産である。

学業以外では、考古学研究会における活動に力を入れた。その活動の中では様々な知識・技能を身につけるとともに、他の部員との交流によって大きく刺激を受けることができた。

以上のような充実した大学生活を送ることができたのは、多くの方々による支えのお蔭であり、感謝してもしきれない気持ちである。これから、新天地での生活が始まると思うと不安で仕方がないが、支えていただいた恩を忘れず、背筋を伸ばして神明奉仕に勤しんでいきたいと思う。

努力することと感謝すること

神道学専攻科　名和長高　奉職先　神社本庁

修了を目前にしてこれまでを振り返ってみると、この専攻科で過ごした一年間は、驚くほど早く過ぎた、充実した一年だった。

四月の入学以来、専攻科で神道に関する様々なことを学んできた。何もかもが初めてのことで、ついていくことで精一杯だったことを覚えている。特に祝詞作文や神社祭式に関する講義は復習をよく行い、同期で行う自主練習にもできる限り参加した。この必死に取り組んだ経験が、後に自信に繋がり、自分を大きく成長させてくれたと思う。

神務実習では、神宮をはじめ、指定神社において実際のご社頭に立つなどの経験をさせていただいた。限られた時間の中ではあったが、現任神職であられる諸先輩方のご厚意で、座学だけでは学べないことを多く教えていただいた、貴重な時間だった。

この一年間は、決して自分一人の力では乗り越えられなかったと思う。両親をはじめ、同期のみんな、また、受け持ってくださった先生方や神職養成部の支援があってこそ、今、自分が修了を迎えられ、四月から奉職できるということを忘れてはならない。

努力することと感謝すること、簡単なようで実は難しいこの二つのことを奉職後も忘れずにいたい。

初志貫徹

コミュニケーション学科　柴田歓音　就職先　小学校（三重県）

四年前の春、教師になりたいという思いだけで皇學館大学に入学した。「教師になるための勉強をするだけ」そんな気持ちで大学生活を送ることを考えていた。しかし、この四年間は勉強だけでなく、たくさんの経験をすることができた。他学科や他学部、先輩や後輩などたくさんの出会いができた寮生活。お金を稼ぐことの大変さを学んだアルバイト。異文化や日本の良さを知ることができた海外留学。寂しく感じることも多くあった一人暮らし。このように良いことも悪いことも含めて、自分の身になる経験ができた四年間だった。そして、三年生の秋からは教員採用試験合格を目指し本格的に勉強をはじめた。大学生活を過ごすうちに、何度か教師になることをやめようかと思うこともあった。しかし、「初志貫徹」という言葉を胸に、教職支援担当が提供してくれる対策講座には積極的に参加し、手を抜かず真剣に取り組んだ。日々の取組みの甲斐もあり、採用試験に合格することができた。四月からは教師となり子どもたちの前に立つ。小学校、中学校、高校、そして大学。この十六年間の学びを生かし、自分らしさを忘れず、笑顔あふれる教師になりたい。

四年間よりも濃い二年間

大学院教育学研究科教育学専攻　稲田達哉　就職先　学校法人作陽学園岡山作陽高等学校

大学院では、社会に出てからではできない経験を多くさせてもらった。

二年前、同学年の人のほとんどが社会に飛び込んでいく中で、私は大学に残ることを選んだ。周りには、早く社会に出た方が勉強になると言われたが、それを押し切った。二年間、勉学に没頭することで社会に出てからはできない経験ができた。また、その過程で社会人として成長することができたと感じている。

学部時代には参加する機会が少ない学会に足を運び、自らの研究を発表した。分かりやすく説明する難しさや、自分の考えを相手に伝える難しさを痛感した。また、海外の学会に参加することで、世界が広がった。学部の四年間では触れようとしなかった異文化に触れることによって興味を持ち、新しい好奇心を持つようになった。

四月からは、同学年よりも二年遅く社会に出ることになる。しかし、この二年間で経験したことを生かし、社会で活躍する人間になっていきたい。

主体的に行動する人であれ

第五十三回 皇學館高等学校卒業式
第二十七回 皇學館中学校卒業式

卒業式当日の朝、神宮参拝する上村学校長(左)と生徒たち

皇學館高等学校及び皇學館中学校の平成二十九年度卒業式がそれぞれ三月一日、同月十七日に挙行され、三八〇名、六十九名が晴れやかな表情で巣立ちの日を迎えた。

卒業生を前に令旨を奉読した上村桂一学校長は卒業証書授与、賞状授与に続き式辞を述べた。その中で上村学校長は先を見通すことが大変難しい時代であればこそ、今、自分が立っている座標を見極め、今後どのような目標に向かって進むべきかを考え、その目標の達成のために主体的に行動する人であってほしいと熱く語った。

また、現代物理学の確立に大きく寄与したヴェルナー・カール・ハイゼンベルクの言葉「決定的に重要な一歩は常に不連続なものである」を取り上げ、「新たな価値を生み出し、未知の問題を解決するには先人から学び取るだけではなく、自分で考え、探究し、判断することを通して、自分らしい考え方、発想を磨き、以って、それぞれの「知」を創造していってほしい」とエールを送った。

卒業生を代表し答辞を読み上げる山本さん

答辞（抜粋）
日本人の精神を持った国際人として

皇學館高等学校 第五十三期生総代　山本瑠香

皇學館高等学校での三年間。同じ時を刻み、苦楽をともにし、たくさんの思い出を作ることができました。

初めての皇高祭。経験のない神式の祭典から始まり、皇學館高校の生徒であることを改めて自覚することができました。二年次の北海道修学旅行。どこまでも広がり続ける大地で、普段とは違う景色や空気に触れ、三泊四日の旅を満喫することができました。そして、三年生となり、四月の学年集会で、「受験は団体戦。最後の最後まで、一つのチームとして頑張っていきましょう」という言葉をいただきました。そこで受験生になったという自覚がそれぞれに生まれ、その輪が学年全体に広がり、受験勉強や就職活動に励むことができました。さらに私は、校友会役員の一人として、皇高祭に関する特別な思い出があります。校友会役員として活動した期間は一年と短かったですが、この経験はとても有意義なもので、私のかけがえのない財産となりました。

さて、今年は冬季オリンピックが韓国で開催されました。過去最多のメダルを獲得し、たくさんの勇気や感動をもらいました。私たち第五十三期卒業生も、「清明正直」な人格と、日本人の精神を備えた国際人として躍進するよう、努力してまいります。そして、在校生の皆さん。これからは皆さんが皇學館高等学校を築いていく番です。良き伝統を受け継ぎながら、新たな一ページを開き、そのバトンを繋いでいってください。

三年間の思いを込めて答辞を読む臼杵さん

答辞（抜粋）
大きな声の挨拶と感謝の気持ちを忘れずに

皇學館中学校 第三十七期卒業生代表　臼杵小奈津

常に優しく寄り添い、時には厳しく、深い愛情をもって私たちをご指導くださった先生方、本当にありがとうございました。「清明正直」の教えを守り、恒に自分に恥じることの無い清らかな心で、常に明るく大きい声で、ぶれることのない正義を胸に、素直に自己表現のできる人間になることをお約束します。

在校生の皆さん、二年間、そして一年間ありがとうございました。これからも皇學館中学生であることを強く意識し、何よりも大きな声の挨拶と、感謝の気持ちを持つことを忘れないでください。これは、本校の美風としてだけでなく、きっと貴方たちの強みになると信じています。私たちは、またお手本になれるよう、高校で頑張ります。みなさんも、頑張ってください。

さあ、春爛漫、巣立ちの時です。私たち六十九名は、夢と希望を胸に、皇學館中学校を卒業致します。

最後になりましたが、これからの皇學館中学校の、ますますのご発展をお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

「羽前大瀧家伝来 鈴木重胤先生関係資料」の寄贈について

皇學館大学研究開発推進センター助教
佐野真人

大瀧直之助・節子ご夫妻と清水学長

山形県鶴岡市在住の大瀧直之助氏から、本学に鈴木重胤先生の関係資料を一括して寄贈していただいたことに対し、平成三十年三月二十四日に清水潔学長・大島信生研究開発推進センター長・私（佐野）の三名が鶴岡市の大瀧家に参上して、大瀧直之助氏への感謝状贈呈式を執り行った。

大瀧直之助氏から御寄贈のお申し出を頂いたのは、平成二十八年四月のことであった。大瀧家の先祖の大瀧光憲（みつあき）は酒造業を営む素封家で、庄内地方の門人の中心として、重胤先生の著述と生活を支えていた。光憲の次子光俊は重胤先生の養子となり光胤と改名した人物であるという。

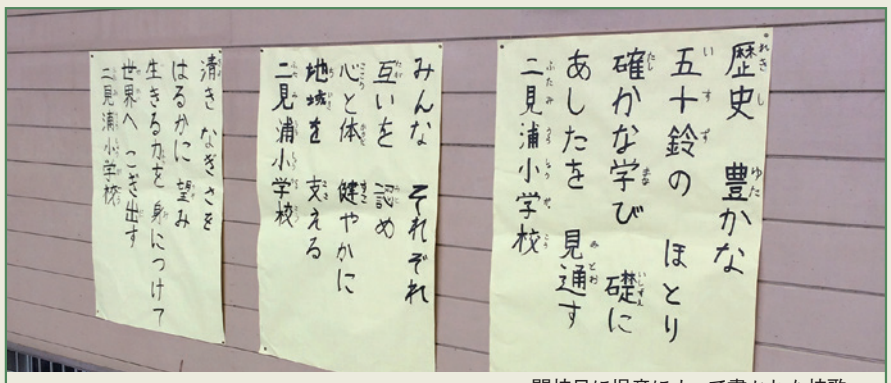
本学と大瀧家との関係は、元学長・谷省吾名誉教授の終世の研究テーマの柱が「鈴木重胤の研究」であり、大瀧家との親交が厚かったと伺っている。その後は、神道資料叢刊『鈴木重胤紀行文集』（神道研究所発行）の資料収集・調査で、谷名誉教授とともに加茂正典教授が大瀧家を複数回訪れていた。その関係から、加茂教授のもとに寄贈のお申し出があった。具体的な資料としては『日本書紀伝』一四七冊（自筆稿本）・『延喜式祝詞講義』二十三冊（自筆稿本）・『中臣寿詞』三冊（自筆稿本）をはじめ、書籍・書簡類など一五三四点である。

平成二十八年九月には直之助氏との面談のため加茂教授が鶴岡市へ赴き、同年十一月十八日に大平和典准教授と私、日本通運の美術品専門スタッフ二名の計四名で、資料の運搬のために大瀧家を訪れた。

直之助氏からは、これらの資料はすべて重胤先生から大瀧家が代々お預かりしたものであることなど、先祖からの御遺命があったということを伺った。また、直之助氏御自身が高齢となり、現状のまま保管を続けることへの不安が大きくなったという。

平成二十九年三月末までに資料の第一次調査を行い、『羽前大瀧家伝来鈴木重胤先生関係資料仮目録』を作成して、岡野友彦教授（研究開発推進センター長・当時）と私が大瀧家を訪問して仮目録を贈呈し、平成二十九年十一月二十四日に直之助氏の御名代として、御長男光弘・奈智子御夫妻、御次男光典・皙子御夫妻が、神道博物館収蔵庫の保管環境と資料の状況を確認するために来学され、平成三十年一月に正式な寄贈手続きが行われた。

今後は資料の保存と研究を進めるにあたり、本学は鈴木重胤先生の学問と大瀧家代々の御遺命を継承し、その文化的な神髄を明らかにしていかなければならないという重要な使命を得た。



開校日に児童によって書かれた校歌

齋藤平教授が二見浦小学校の校歌を作詞

このほど国文学科・齋藤平教授が、伊勢市立二見浦小学校の校歌を作詞した。同校は、学校規模の適正化と防災対策から二見小学校と今一色小学校を統合して平成29年度に誕生。両校はそれぞれが齋藤教授の父方、母方の出身校であることが作詞依頼の決め手になった。

作詞にあたり工夫した点は歌詞の短さにあるという。三重県内の小学校校歌の歌詞は1連当たり180拍（平仮名の文字数）であるのに対し、二見浦小学校校歌では135拍と25％減になっている。これは作曲者の野中正紀氏の全曲を歌って欲しいという要望に応じたもの。

この他、やさしい言葉や伝統的な「清渚（きよなぎさ）」を使い、「確かな学力」「生きる力」といった学びの基本を含む。また、「相互の人格の尊重」により、いじめの無い学校にしてもらいたいというメッセージが込められているという。

齋藤教授は、目を輝かせる児童の皆さんに親しみを持って歌い続けてもらいたい、と話している。

就職者VOICE

夢を叶え、今春から神職、教職として一歩を踏み出す先輩たちの声を紹介します。❶志望理由 ❷活用した制度 ❸将来の抱負

神職編

西田日向子（神道）
【奉職先】乃木神社

❶近所のお社でご奉仕していた女性神職に憧れ、本学への入学を決意。実習等で現任の神職の方を拝見し、志を一層強くした。❷神職養成部の方が志望先の神社に奉職している先輩に私からの質問を代わりに聞いてくださったり、親身に相談に乗っていただいたことで不安なく奉職活動を進めることができた。❸神様と氏子、崇敬者の間を取り持つ立派な神職になりたい。また、本学の卒業生としてその名に恥じないよう励む。

池田雅貴（神道）
【奉職先】嚴島神社

❶平成二十五年の神宮式年遷宮をきっかけに入学。多くの神社で奉仕するなかで、神道を奉じ一心に神明に奉仕する神職の姿に感銘を受け、白衣を着て一生生きていこうと決心した。❷神職養成部の方々が過去の試験資料を用いながら熱心に指導してくださった。個別で面接をしていただけたことで、自分の気持ちをまとめることができた。❸国のため、国民のためを思い、日々お祭りをしたい。

教員編

山本理聖（国文）
【就職先】福岡市（高等学校・国語）

❶教師である母から「教え子の成長した姿を見ると嬉しい」と聞き、教師という職の魅力に気付いた。また大学の授業を通して国語の幅広さ、深さを知り、国語の教師をめざす気持ちがさらに強くなった。❷就活に不安はつきものだが、教職支援の先生に相談させていただき、自信を持って試験に臨むことができた。悩んだときは学科や支援員の先生、友人に話し、進められた点もありがたかった。❸「子どもたちに教わることも多い」と、ずっと心に留めておける教師になりたい。

稲垣結花（国史）
【就職先】三重県（中学校・社会）

❶中学時代の恩師に憧れて。❷教員採用試験対策特別講座」「教員試験対策DVD講座」「自己PR・面接対策講座」を活用したほか、三重県の教育についての配布資料が面接で非常に役立った。❸初心を忘れずにこれからも学び続け、子どもと共に成長していける教師でありたい。

山﨑温子（教育）
【就職先】三重県（中学校・英語）

❶中学生の頃から教師になると決めていた。❷「集団面接・グループディスカッション実践講座」では非常に丁寧にご指導いただいたおかげで、自信を持って本番に臨めた。❸生徒に寄り添い、共に成長できる教師。

坂　風花（教育）
【就職先】三重県（特別支援学校）

❶小学生のときに出会った先生のように、児童一人ひとりの良いところを見つけ、自信を持たせられるような働きかけをしたいと思った。❷「集団面接・グループディスカッション実践講座」で何度も練習したことで、本番は緊張せず行うことができた。❸行動や発言に責任を持つこと。

江藤俊太（国史）
【就職先】三重県（小学校）

❶子どもが好きなことに加え、高校時代の恩師に憧れたから。❷教職支援の資料や問題集が一次試験の勉強に役立った。「集団面接・グループディスカッション実践講座」ではいろんな人の意見を聞くことができ、視野が広がった。❸子どもたちに「出会ってよかった」と思われる教師になる。

生川　舞（教育）
【就職先】三重県（小学校）

❶小学生の頃から続けてきたスポーツを子どもたちに教えたいとの漠然とした思いが、教育アシスタントやボランティアの経験を通して明確な目標に変わっていった。❷「自己PR・面接対策講座」「集団面接・グループディスカッション実践講座」はとても参考になった。❸子どもの成長に寄り添い、わずかな変化にも気付いて良さを伸ばしてあげられる教員をめざす。

山本　航（教育）
【就職先】愛知県（小学校）

❶部の顧問の先生に憧れたこと、大学で行った模擬授業を通して授業の大切さややりがいを感じたことが大きなきっかけ。❷過去問を解いたり、同じ自治体を受験する友人と面接の練習をした。論作文・面接指導では細かいところまで教えていただけたことがありがたかった。❸皇學館で学んだことを生かして、子どもの気持ちを考えられる教師をめざし日々努力していきたい。

若松美月（教育）
【就職先】弥富市（保育所）

❶小学生の頃から保育士になりたかった。また、実習での経験から、乳幼児の育成に関わりたいと強く思った。❷面接が苦手だったため、教職支援の先生に何度も練習に付き合っていただいた。徐徐に自信が芽生え、本番では落ち着いて受け答えができた。就職支援も同時に活用したことでよりアドバイスや悩みを聞いていただく機会が増え、周りと違う時期の受験を乗り越えることができた。❸大学での学びを生かし、ひたむきに頑張る。

新4年生 就職活動がスタート！

本番さながらの雰囲気で行われた集団面接の練習会

三月一日、企業広報活動が解禁となり、全国で一斉に就職活動が開始された。

本学学生も昨年十二月から企業の1DAYインターンシップに参加して企業研究を進めてきた。就職担当では、三年生を対象に一年間を通して就職対策の支援行事を展開してきた。

昨年四月から、四回の就職ガイダンスと八回の就職対策講座を実施。就職活動の進め方から履歴書・ES作成、面接対策や業界・企業研究、就活マナー講座に至るまで、外部から専門の講師を招き準備を進めてきた。他にも、内定を得た四年生による「内定者報告会」や「OB・OGによる仕事紹介」なども開催した。

真剣な表情で講師の話に耳を傾ける参加者たち

就職活動解禁直前の二月には実践的な支援行事を開催した。伊勢市産業支援センターのご協力を得て企業研究の一環として実施されたバスでの「伊勢市内企業見学会」には地元伊勢への就職を希望する学生が多く参加をした。「学内1DAYインターンシップ（営業編・事務編）」では希望職種の視野を広げることを目的とし、一日かけてそれぞれの仕事理解を深めた。

さらに、就職活動の一連の流れを模擬体験することを目的とし、会社説明会、筆記試験、グループディスカッション・集団面接など、実際の選考を模したものを一日で体験する「1DAY就活全部体験講座」も実施した。

また、実践的な形で行う「集団面接・グループディスカッション練習会（全七回）」や県内各高等教育機関から学生を集めて行う「合同グループディスカッション練習会」を開催し実践力を磨いた。

三月六・七・十六日には地元の地銀三行（百五・第三・三重銀行）との共催による学内合同企業説明会を開催。県内に本社及び事業所を置く六十四社の企業とのべ約四百名の学生が参加し、本格的な採用選考に臨んでいく。

『神職との兼業をめざして』

農業分野・有償型インターンシップ報告

報告会には農業従事者等、大勢の方が出席し、学生たちの発表に聞き入っていた

三重県内の意欲ある農業経営体の協力を得て平成二十七年から実施されている三重県農林水産支援センター主催の「農業分野での学生による有償型インターンシップ」（就労体験を通じた農業就労促進事業）に今年度、県内から十三名の学生が参加。二月三日、三重県総合文化センターにて報告会が開催され、学生代表の一人として本学神道学科三年の中野公平さんが発表した。

農業を通じて命への感謝の思いを新たにしたと語る中野さん

中野さんは平成二十九年八月二十九日～九月十九日のうちの十日間、津市の佐脇三夫さんのもとで水稲づくりに従事。刈取りや乾燥調整に携わった。将来は地元である津市内の神社への奉職を希望しており、「このインターンシップに参加したことで神職と農業は兼業できると確信した」と話す。また、お米が出来上がるまでの過程を実際に体験したことでありがたみが増したと言い、「一生懸命、丁寧な作業を心掛けてこそ収穫でき、お供え物となる」と、真心を込める大切さを語った。「自然と向き合う中で働く原点を見つめ直すことができた」とも話す中野さん。進路に迷ったら、ぜひ同インターンシップに参加してほしいと呼び掛けた。

地域連携トピックス Vol.6

着実に根付きつつある連携活動

二十七活動、のべ二六四名が参加

平成二十九年度CLL活動報告会

平成二十九年度CLL（Community Learning Labo）活動報告会が三月八日、六二二教室で行われた。地域と連携した学修プログラムであるこの活動が本格稼働して三年目となる今年度は二十七活動、のべ二六四名の学生が参加。報告会では新規プロジェクトを中心に代表者がその成果を発表し、約六十名の来場者は熱心に耳を傾けた。

報告会で学生たちは「この地域をもっと好きになった」「自分たちが参加することで地域の行事を存続できるのが嬉しい」「今後も継続していけるよう、楽しかったことを後輩にも伝えたい」「学生だからできる企画を考えたい」「考えの幅が広がった」「住民の声と訪れる人の声にはズレがあるとわかった」など、実際の活動を通して多くの気付きや学びがあったことを語った。なお、聴衆が最も共感したプロジェクトを表彰するオーディエンス賞には「みえ食旅パスポート利用促進プロジェクト」が選ばれた。この活動では「みえ食旅パスポート」の若者の利用率が低い原因を学生の視点で分析。インカメラ用の表紙提案やSNSへの投稿キャンペーンを企画し実施したことが支持を得たようだ。

時間の関係で発表できなかった残りの活動については成果をパネル展示する形で報告がなされた。

オーディエンス賞を受賞した「みえ食旅パスポート利用促進プロジェクト」

多彩な成果が発表された

平成29年度 CLL活動

新規

- **玉城町玄甲舎PJ**●歴史的建造物（茶室）の修復、利用を通した「まちづくり」を地域の人々と考える。
- **「みえ食旅パスポート」利用促進プロジェクト**●観光分野の現状分析、パスポートの企画・PR活動及び伊勢志摩の旅の提案。
- **学生×地域サポーター「SBC」**●これまでの活動経験者がCLLに関するイベントの運営や参加学生のサポートを行う。
- **JA伊勢「青ねぎ・いちご」PJ**●JA伊勢の主力品目・青ねぎ・いちごを使った魅力あふれる加工品の開発、流通・マーケティング開拓。
- **宇治山田まちなか研究室PJ**●宇治山田駅近くの産官学連携拠点「まちなか研究室」の活用企画と運営。
- **新聞カフェ**●現役の新聞記者と飲み物片手に新聞を読み、地域の課題や社会問題を語る。
- **「学生」×「地域」の活動発表会「みえまちキャンパス」実行委員会**●高等教育コンソーシアムみえ主催のイベント「みえまちキャンパス」の企画、運営。
- **離島ツアー in 間崎島 ～体験ツアーの企画と実施～**●英虞湾に浮かぶ過疎・高齢化の進む有人離島・間崎島でのエコツーリズム企画に参画。
- **みんなの声を聞くには?プロジェクト**●大学生と市議会議員が地域行政の具体事例について意見交換。
- **宇治山田商業高校課題研究（商品開発）サポータ**●宇治山田商業高校が行っている地元食材を使った商品開発の授業にサポータ、アドバイザーとして参加。
- **未来を担う子どもたちへ福祉のWAを紡ごうproject**●二見町を主なフィールドに、子ども世代に福祉や認知症の理解を深め、広める活動。
- **伊勢市地域福祉計画・活動計画に関するリサーチ及びコミュニケーション**●伊勢市社会福祉協議会の地域福祉計画・活動計画に反映すべく、学生が実態調査等を行う。
- **着ぐるみ（伊勢まいりん）を使用した伊勢市観光事業のPRプロジェクト**●伊勢市観光協会の公式キャラクター「伊勢まいりん」を使ったPR活動に関する意見・アイデア出し。
- **伊勢古市歌舞伎保存会**●伊勢古市歌舞伎保存会の自主公演の開催に向け企画・広報・運営に参画。

継続

- ●国崎二船祭プログラム　●玉城産豚ブランド化プロジェクト
- ●伊勢おもてなしヘルパープロジェクト
- ●伊勢河崎商家リノベーションプロジェクト
- ●大紀町木のおもちゃプロジェクト　●皇學館みらい対話団
- ●防災のための大湊地域資源発掘プロジェクト
- ●度会カフェリョクプロジェクト
- ●南伊勢町UAV（ドローン）防災活動プロジェクト
- ●伊勢シーパラダイス、リニューアルプロジェクト
- ●玉城ミュージックモンスターフェスティバル（TMMF）実行委員会
- ●産学官連携日本酒プロジェクト
- ●あばばい ～伊勢志摩国立公園　学生部会～

伊勢市との連携事業 世界から伊勢へ 伊勢から世界へ

第五回「伊勢」と日本スタディプログラムを開催

西洋文化圏で日本学を専攻する外国人の大学院生等に神道や伊勢の歴史・文化について学びを深めてもらうことを目的とした「伊勢」と日本スタディプログラムが二月十八日～三月十一日までの間、本学を拠点に開催された。

今年は十二カ国から十四人が参加した。スウェーデン・スロバキア等、初めての受け入れとなる国は四カ国で、応募者は年々増加しており、本プログラムが様々な国に浸透していることがわかる。

さて、プログラムは「伊勢神宮の歴史」や「伊勢の民俗・風俗」等の座学に加え、神宮の他にも二見や河崎、大湊等、伊勢市内の様々な名所旧跡を本学教職員・学生のサポートのもと訪ねるが、地域のガイドや住民からその訪問を待ちわびる声が聞こえてくるようになった。たいていの参加者はその地域のことについて熱心に質問し、写真を撮り、すぐさま情報をまとめ、発信する。滞在最終週の三月八日には、成果発表会が実施されたが、伊勢・朝熊出身の詩人、北園克衛（きたぞのかつえ）（一九〇二～一九七八）について取り上げた参加者がいて、場内は驚きに包まれた。

今回で五回目となった本プログラムではこれまで二十四の国々から六十六名の参加者を受け入れてきた。毎回、参加者間はもちろんのこと、伊勢市民も巻き込み、国籍を越えた友情が育まれている。これこそ異文化交流の醍醐味だ。今後も本プログラムがひいては本学、そして伊勢の国際化につながることを期待したい。

皇學館大学祭式行事作法体験【2月21日】

佐野真人助教の解説を熱心に聞く参加者（内宮）【2月22日】

CLL活動レポート

交流を深め、情報交換の場に

学生×地域の活動発表会「みえまちキャンパス」実行委員会

県内すべての高等教育機関で構成される「高等教育コンソーシアムみえ」では、県内の学生と地域が連携して行っている取組みの周知や情報交換を目的に〈学生×地域の活動発表会「みえまちキャンパス」〉を開催している。同イベントが二月十二日、今年度の当番校である本学で催され、CLL活動の一つ「みえまちキャンパス」実行委員会によるスムーズな運営のもと約百名が来場し、盛況のうちに終了した。

イベントでは部門別プレゼンとパネル展示が行われ、前者には十団体、後者には十五団体が参加。本学からは「子育て支援活動・ぴよぴよ」「地域子育て支援研究部会」「伊勢シーパラダイス、リニューアルプロジェクト」「皇學館みらい対話団」が出場した。また、それぞれ最も共感した団体を会場投票で決めるコンテストが実施され、ベストプレゼン大賞には四日市大学・四日市看護医療大学による「四日市東日本大震災支援の会」、ベストパネル大賞には鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の「鈴短クッキング同好会Tomato」が輝いた。参加者たちは活動内容こそ違えど地域課題の解決や地域貢献など目標を一にする者同士、交流を深めていた。

ひと・まち・まなびの3部門に分かれプレゼン

多様な経験が自身の成長に

玉城町玄甲舎（げんこうしゃ）PJ

田丸城主・久野丹波守（くのたんばのかみ）の家老で茶人としてもその名を知られた江戸後期の文化人・金森得水（かなもりとくすい）の別邸「玄甲舎」。一八四九年に建てられたこの貴重な建築物を多世代交流拠点として利活用しようと、玉城町では修復及び周辺整備を進めている。

玄甲舎は築170年の、茶室と居宅を兼ねた建物。表千家出入りの数寄屋大工「庄（正）五郎」唯一の遺作

CLL活動「玉城町玄甲舎PJ」ではこれらの取組みを広く知ってもらおうと、プロモーションビデオの作成やテレビ出演のほか、活用方法に関する話し合いに参加してきた。メンバーの杉本快斗さん（国文三年）は「期待されているような学生らしいアイデアを出すのは難しかった」としながらも、「僕たちの指摘で魅力に気付いたこともあり、身近すぎて地元の人人が観光資源として認識していないものがまだまだ眠っているのでは」と語る。

また、広報活動をする中でパソコン技術の足りない点や人前に立ち自分の意見を伝えることの難しさ、行政の仕事を知る貴重な機会にもなったと言い、「誰にお会いしても『玉城町はとてもいい町』と話していて、人々の地元愛に感動した。将来は僕も地元四日市の市役所で働きたいと思っているので、今回の経験を通して自分の町についてもっとよく知り、大切にしたいと感じた。そして、スキルを磨き新しいことにどんどんチャレンジして、自身の成長につなげたい」と意欲を語った。

皇高 NEWS

初の全国大会出場で銀賞

第41回 全国アンサンブルコンテスト・金管八重奏の部

三月二十一日、神奈川県の「よこすか芸術劇場」にて開催された第四十一回全国アンサンブルコンテスト・金管八重奏の部に吹奏楽部から古市琴音さん、長谷川瑞希さん、中川裕一朗さん、曽根萌里さん、生駒実紅さん、生駒二葉さん、大場美月さん、喜樂彩乃さんが東海代表として出場した。以下にメンバーの感想を記す。

演奏終了後、会場前で

創部以来初となる全国大会ということもあり、大会当日まで時間をかけて練習に臨み、自分たちの演奏と真摯に向き合ってきました。

当日は、いつもとは違う環境で、緊張や不安もありましたが、それらをむしろ楽しみながら、練習してきたことを信じ、思い切り出し切ろうという心持ちで臨みました。また、支えてくださる周りの方方への感謝、曲に対する情熱が音に乗るよう努めました。結果は銀賞をいただきました。金賞は叶いませんでしたが、何よりも、皇學館らしい演奏ができたということに喜びと達成感を得ました。何事も全力を尽くせば、後悔は残らないという事を実感した瞬間でした。

全国の舞台に立ったことが自信に

神奈川県での二日間は、私たちにとって何事にも代えがたい貴重なものとなりました。初めて全国の強豪校と同じ舞台で競い合う中で、そのレベルの高さを痛感すると共に、曲に対する情熱の深さを肌で感じました。それでも、銀賞をいただくことができたということ、そして何より全国の舞台まで登りつめたということは、今後の私たちを後押しする確かな自信となりました。

「全国大会金賞」を夢のままで終わらせず、その夢に向かい、部員一同活動により一層拍車をかけて邁進していきたいと思います。これからも応援よろしくお願い申し上げます。

生徒の成長めざましく

第一回ニュージーランド語学研修

三月十一日から二十日までの十日間、ニュージーランド北部、オークランドにおいて語学研修を行った。

オークランド大学キャンパスツアーの途中で

人口約二百万人のオークランドは、ニュージーランド最大の都市だ。研修を行ったアボンデール高校の生徒数は約三千人と、ニュージーランドでも二番目の規模のマンモス校である。

初実施となった今回の研修には十一名の二年生が参加した。

初日こそオリエンテーションや学校見学などで終わったが、二日目からは英語漬けの日々が始まった。授業は英語のみで実施された。自分の考えを英語で表現しなければならない、まさに「サバイバル授業」が行われた。

簡単な受け答えにも苦労していた生徒たちだったが、徐徐に英語にも慣れ、自分の考えを英語で表現できるようになっていった。最終日には研修の仕上げとして二分間の英語スピーチを行い、担当の先生も生徒たちの成長した様子に驚いていた。

授業の合間には、ニュージーランド航空の現役キャビンアテンダントの方にも特別ゲストとして講義していただき、英語学習、進路選択、そして海外で日本人が働くことの楽しさなどを教えていただいた。

生徒たちにとって、ニュージーランドでの日々は強烈な記憶として脳裏に焼きついているに違いない。進路を考えるきっかけになった生徒、英語学習への意欲を高めた生徒、自分を変えるきっかけになった生徒、様々であろう。生徒たちの今後の成長が楽しみである。

国際交流担当　角屋重文

皇中 NEWS

「英語で伊勢ガイドツアー」を初実施

三年生・総合学習

本校では「グローバル人材育成プログラム」の一環として自国文化・他国文化理解をテーマに学習を進めており、二年次には「神宮研究」を授業に取り入れている。そうした学業の成果を生かそうと、「英語で伊勢ガイドツアー」を企画。二月二十七日に三年生を対象に実施した。

一生懸命コミュニケーションを図った生徒たち。後日、留学生に関する情報をまとめた「留学生紹介シート」を作成し、色々な国の言葉や文化、習慣について学び、情報を共有した

事前研究として生徒はテーマごとにリサーチしたりガイドブックを作成。調べた内容を共有し、シミュレーションも行うなど入念に準備を進めてきた。そして迎えたガイドツアー当日、まずは学校で留学生十三名と顔合わせ。名古屋大学で学ぶ彼らの出身国はパキスタン、モンゴル、カナダ、韓国など十一カ国にわたり、国際色豊かなメンバーに生徒たちも興味津々！積極的に質問をやりとりする姿が見られた。緊張がほぐれたところでバスに乗り、内宮へ。おはらい町にて伊勢うどんやてこね寿司、赤福など伊勢名物を堪能し、内宮では歴史をはじめ建物や手水・参拝の作法、お守りについて説明するなど、時にジェスチャーも交えながら一生懸命に英語でガイドをした。瞬く間に時間は過ぎ、ツアーが終了。無事にガイドをやり切った生徒たちはどの顔も満足気だった。

世界各国からの留学生と素晴らしいひと時を共有できた生徒たち。今回の経験を生かし、英語の運用力向上を図るのはもちろんのこと、日本や伊勢の文化を発信するとともに他国の文化や慣習、価値観を知り、国際的な視野をさらに広げてほしい。

教務部部長　小林誠治

「日本人はなぜ日本のことを知らないのか」

建国記念の日の講演

二月九日午後、記念講堂にて「建国記念の日の講演」を実施。竹田恒泰氏を講師にお迎えし「日本人はなぜ日本のことを知らないのか」と題して皇學館中学生、高校生を対象に講演をしていただいた。国民の祝日の話に始まり、なぜ二月十一日が「建国記念の日」と定められたのか、日本という国の成り立ち、日本人はそれをどの程度理解できているのか等について分かりやすく教えていただいた。日本国や日本の素晴らしさを再認識できるような話であり、会場の生徒たちはメモを取りながら熱心に聞き入っていた。以下に生徒たちの感想を掲載する。

- 日本人は日本のことを知らないという事実に驚いた。私は日本に生まれ育ち、今まで日本人として生きてきたけれど、いつ、誰が日本を建国したのかを知らなかった。国際社会で生きていくためには、もっと日本のことを理解しなければいけないと思った。
- 過去の日本から学ぶべきこと、他国にはない独自の文化、昔から伝わる自国愛の精神などを私たちは忘れ去ることなく後世に伝えていく重要性を確認できた講演会だった。
- 日本が成立した経緯やこれまでの歩みを学べてよかった。
- 教科書には日本の建国についてほとんど載っていないし、授業でも教えられることがなかったので今まで知らなかったが、紀元前六六〇年の弥生時代に日本ができたということ、世界で一番歴史が長い国であることがわかった。
- 今日の講演は「日本」という国について考えさせられる内容だった。普段はなんとなく生きているこの国は他国に比べて平和で安定していて、しっかりとした歴史を持っているのだと思えた。
- 世界で唯一の二千年続く国、日本。この誇りを持つ私たちは自国について知らないことばかりだ。知ろうと思えたきっかけを与えてくれたことに感謝。
- 講演を聞いて、改めて日本が好きになり、日本に生まれてよかったと思った。日本という国と文化を大切にして将来、自分の子や未来に伝えていきたい。
- 講演では、国際社会で活躍するには、まず日本について知ることが大切だとお話してくださった。私は日本のことを学び、正しく発信しながら国際社会で活躍したい。
- 日本が今、平和なのは、昔の人たちが守ってくれたからだと思う。毎日大切に生きようと思った。

教学振興会寄付者芳名

ご挨拶

学校法人皇學館 理事長　佐古一洌

平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。

さて、教学振興会につきましては、平成二十九年度におきましても、多くの方々のご入会、ご支援をいただき、改めまして皆様方のご芳志に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

平成二十九年度は、真のグローバル人材を育成すべく、我が国の歴史や伝統文化に関する学びに加え、実践的な語学プログラムや留学制度をさらに拡充させ、生徒・学生への修学支援を行ってまいりました。又、大学においては地域と連携して取り組んできました学修カリキュラム「伊勢志摩定住自立圏共生学」の第一期生が社会へ巣立つなど、教学振興会支援事業は着実に実を結び、成果を収めつつあります。

ひとえに皆さま方のお力添えによる賜物と感謝申し上げ、更なる本学園への期待に添えるよう、鋭意努力いたす所存でございます。

ここに平成二十九年度にご入会いただきました皆様方のご芳名及び寄付金納入状況をご報告させていただきます。

今後とも「教学振興会」への温かいご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成二十九年度ご入会者芳名

宗教界

埼玉県　箭弓稲荷神社様
長崎県　天龍姫大神講社様

企業

三重県　株式会社さくら様
株式会社松井真珠店様
株式会社ワールド様

館友

岩手県　鎌田博之様　清水野佑季様
埼玉県　川端康稔様　吉田弘様
東京都　佐々井純真様
神奈川県　田村進様
富山県　櫻井都嘉佐様　長谷川孝徳様
石川県　谷口大明様
岐阜県　川嶌英博様　須永邦枝様　曽我真也様　長谷部敏行様　横山泰様
静岡県　加藤千靖様　後藤正一様　鈴木猛俊様　平林大輔様　牧野香様　牧野公一様　松浦美帆様　水口和樹様
愛知県　飯田圭一様　臼井稚人様　大谷武司様　大原和生様　小澤恭子様　木全修様　高須浩之様　安江英男様　山脇敏夫様　横地晏重様
三重県　大津政紀様　岡田奈子様　片岡瞬様　釜田達様　神田德夫様　後藤裕美様　坂部紋香様　下村俊昭様　鈴木隆俊様　田井健治様　寺田悠人様　寺田美穂様　長井貴史様　西井一尊様　西脇智広様　野北美香様　山本浩子様　横地克重様

平成29年度 教学振興会寄付金納入状況報告

平成30年３月31日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	279	27,740,000	25,280,000
企業	30	1,460,000	1,300,000
館友	640	5,852,000	4,397,000
萼の会会員	473	3,280,000	2,235,000
高等学校保護者	133	870,000	660,000
中学校保護者	45	425,000	305,000
一般（篤志家等）	10	145,000	45,000
本法人関係	228	2,565,000	2,360,000
合計	**1,838**	**42,337,000**	**36,582,000**

滋賀県　横山昌浩様
京都府　竹内幸平様　上田榮英様　賀勢弘様　平石克巳様
大阪府　粟辻卓様　川上惠三様　紀ノ崎剛様　神武磐彦様　白江恒夫様　白江眞由美様　谷口裕子様　谷口義城様　野村明義様　森達次様　吉田熙様
兵庫県　岡田寛次様　中村新様　野村智範様　室﨑晴之様
奈良県　嬉野通義様　柿坂匡孝様　塩谷陸男様　松井美裕様　持田八重様　山下純子様
和歌山県　塩﨑昇様　髙橋正樹様　山本宗男様
鳥取県　今岡靖史様
岡山県　上西謙介様　柆田武德様　髙原伸家様
広島県　池田憲明様
山口県　真庭早希様　真庭孝雄様　真庭秀子様　丸茂雄治様
徳島県　篠原亮太郎様
香川県　藤田泰臣様　余島卓弥様
愛媛県　東慎太郎様
福岡県　片山豊孝様　熊懐隆三様　波多野道彦様
長崎県　本田利一郎様　村田仁様　村田直様
宮崎県　佐藤延生様

萼の会会員

神道学科　朝倉章五様　石原英俊様
国文学科　伊藤佳和様　伊福部広司様　小川伸也様　柿坂匡孝様　菊田久光様　川上留美様　木村公一様　黒川寛幸様　黒柳明満様　駒井新様　塩﨑昇様　白又智子様　玉田誠様　中山達美様　八鳥政春様　八巻淳様　渡邉正弘様　楊惠欣様
国史学科　浦口京子様　片山勇様　加藤かおる様　河合聡様　切上浩光様　髙澤幸様　田中久子様　濵村辰也様　星野岳人様　藪木剛彦様
コミュニケーション学科　井上正登様　上村告様　片岡正人様　加藤正勝様　加藤量平様　出口清成様　松井敏美様　森島君江様　山岡徳志様　脇阪均様
教育学科　奥岡宗久様　西直樹様　波多野道彦様　山腰英利様　石井高浩様　井關保彦様
高等学校保護者　市川岳司様　伊藤正樹様　岩田定和様　潮田裕様　大井仁様　大西利浩様　小川公士様　北村優樹様　酒德晃正様　清水康博様　鈴木孝弘様　田井健治様　秋元雅仁様　一路侑杜様　井出宏様　大井智香子様　大杉成喜様　勢力稔様　一般（篤志家等）　光原ひとみ様　水谷順様　山門栄吾様　荒川智恵様　大井一晃様　尾野晃彦様　川原田敦様　北尾一巳様　小林孝久様　高田敏孝様　玉山元一様　中川勝博様　西井清治様　髙田敏孝様　天野雅博様　阿形幸信様　井村裕様　杉田毅様　鈴木量子様　竜川望様　刀根孝之様　山口県　恵良宏様
中学校保護者　伊藤恒夫様　産屋敷秀信様　大川康成様　岡﨑雄様　尾崎彩子様　金丸剛様　川添正和様　倉本勝也様　澤田美様　鈴木孝知様　竹矢久志様　中村好児様　藤田秀幸様　宮口充弘様　元嶋清道様　安田友治様　脇田圭一様　増井一宣様　藤田直紀様　平賀美津雄様　長谷川博哉様　西三知代様　南弘美様　中島良武様　出口彰彦様　津村恵理子様　趙志勇様　谷﨑寧様　田川珠里様　染井敏孝様　三宅潤様　村林宏様　松村圭剛様　松川寿紀様　森田貴樹様　山根久典様　山本聡士様　米田充様
本法人関係　市川岳司様　伊藤正樹様　岩田定和様　潮田裕様　大井仁様　大西利浩様　小川公士様　北村優樹様　酒德晃正様　清水康博様　鈴木孝弘様　田井健治様　秋元雅仁様　一路侑杜様　井出宏様　大井智香子様　大杉成喜様　勢力稔様　学校法人皇學館教職員　恵良宏様

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、芳名の掲載をご希望されない方々については、件数のみ掲載させていただきました。●企業1件●館友17名●萼の会会員18名●高等学校保護者14名●中学校保護者2名●一般1名●本法人関係2名

平成30年度 皇學館大学 月例文化講座（聴講料無料）

年間テーマ　さまざまな資源からみた伊勢神宮の魅力
担当●地域連携推進委員会

各日とも　時間●午後２時より　場所●４号館 431教室

- 第１回　５月12日(土)　現代日本社会学部教授　橋本雅之
  芸能・芸術資源として見た伊勢神宮の魅力
- 第２回　６月２日(土)　文学部准教授　クリストファー・メイヨー
  観光資源としての伊勢神宮の魅力
- 第３回　７月７日(土)　教育学部教授　中松豊
  伊勢神宮の森に棲息する生きものどうしの関係―寄生蜂の生活について―
- 第４回　８月４日(土)　教育学部准教授　渡邉毅
  教育資源として見た伊勢神宮の魅力
- 第５回　９月８日(土)　研究開発推進センター助手　小林郁
  中世・近世の文献資源から見た伊勢神宮の魅力
- 第６回　10月６日(土)　文学部教授　齋藤平
  言語生活からみた伊勢神宮の魅力
- 第７回　11月17日(土)　教育学部教授　小木曽一之
  心身の健康からみた伊勢神宮の魅力
- 第８回　12月８日(土)　現代日本社会学部教授　新田均
  伝統産業資源から見た伊勢神宮の魅力

平成30年度 皇學館大学・近鉄文化サロン共催講座のご案内（４月～９月）

開催場所●近鉄文化サロン阿倍野（大阪市阿倍野区阿倍野筋2-1-40 and４階）　各日とも　時間●15:30～17:00　聴講料有料

１日・短期講習会

『日本書紀』を読む　文学部教授　大島信生
- ８月４日(土)　垂仁天皇(1)
- ９月１日(土)　垂仁天皇(2)
- ９月29日(土)　垂仁天皇(3)

『伊勢参宮名所図会』を読む　文学部教授　岡野友彦
- ４月21日(土)　逢坂山から石場(1)
- ７月21日(土)　逢坂山から石場(2)

- ６月16日(土)　**禅宗の伝来**　文学部准教授　多田實道
- ７月７日(土)　**神道と北斗信仰**　文学部准教授　松下道信
- ８月18日(土)　**伊勢路と紀伊路**―熊野古道から昔のことを考える―　研究開発推進センター教授　荊木美行
- ８月25日(土)　**皇室の基礎知識**―即位儀礼の概要と歴史―　文学部教授　松本丘

定期講座

『古事記』を読む（仁徳天皇～雄略天皇の段）　文学部教授　白山芳太郎
- ４月14日(土)　仁徳天皇(上)
- ５月12日(土)　仁徳天皇(下)
- ６月９日(土)　履中天皇～反正天皇
- ７月14日(土)　允恭天皇
- ８月11日(土)　安康天皇
- ９月８日(土)　雄略天皇(上)

神道と仏教―神仏習合と神仏分離―　副学長・文学部教授　河野訓
- ５月26日(土)　150年前の日本の宗教事情―神仏分離と廃仏毀釈―
- ６月23日(土)　枚岡神社における神仏習合と神仏分離
- ７月28日(土)　愛宕神社における神仏習合と神仏分離
- ９月22日(土)　鹿児島藩における神仏分離と廃仏毀釈

◉受講のお申込等、詳細は下記にお問い合わせください。

お申込み・お問合せ　**近鉄文化サロン阿倍野**
〒545-0052　大阪市阿倍野区阿倍野筋2-1-40 and４階
TEL 06-6625-1771【受付時間】10:00～20:00（日曜・休講日は10:00～17:30）

イベント情報（4～6月）

4月

14 土 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
『古事記』を読む（仁徳天皇～雄略天皇の段）
「仁徳天皇（上）」　白山芳太郎（文学部教授）

21 土 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会『伊勢参宮名所図会』を読む
「逢坂山から石場（1）」　岡野友彦（文学部教授）

5月

12 土 月例文化講座　431教室
芸能・芸術資源として見た伊勢神宮の魅力
橋本雅之（現代日本社会学部教授）

12 土 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
『古事記』を読む（仁徳天皇～雄略天皇の段）
「仁徳天皇（下）」　白山芳太郎（文学部教授）

26 土 佐川記念神道博物館教養講座　佐川記念神道博物館講義室
伊勢学事始Ⅰ　第1回「伊勢とことわざ」
齋藤　平（教育開発センター長・文学部教授）

26 土 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教―神仏習合と神仏分離―
「150年前の日本の宗教事情―神仏分離と廃仏毀釈―」
河野　訓（副学長・文学部教授）

6月

2 土 月例文化講座　431教室
観光資源としての伊勢神宮の魅力
クリストファー・メイヨー（文学部准教授）

9 土 研究開発推進センター史料編纂所古文書講座　佐川記念神道博物館会議室
第1回「古代文書を読む」
荊木美行（研究開発推進センター副センター長・教授）

9 土 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
『古事記』を読む（仁徳天皇～雄略天皇の段）
「履中天皇～反正天皇」　白山芳太郎（文学部教授）

16 土 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会　禅宗の伝来　多田實道（文学部准教授）

17 日 三重県生涯学習センター×皇學館大学×玉城町協働講座
三重県生涯学習センター3階まなびぃ場情報コーナー　みるシル
現代に蘇る「玄甲舎」～その歴史的価値と利活用～
池山　敦（教育開発センター助教）

23 土 佐川記念神道博物館教養講座　佐川記念神道博物館講義室
伊勢学事始Ⅰ　第2回「地域資源としての伊勢周辺の自然環境」　近藤玲介（教育開発センター准教授）

23 土 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教―神仏習合と神仏分離―
「枚岡神社における神仏習合と神仏分離」
河野　訓（副学長・文学部教授）

◉各講座の詳細につきましては、**本学ホームページ**にてご確認ください。
◉**共催講座**（近鉄文化サロン阿倍野）のみ、**有料**です。お問い合わせは**近鉄文化サロン阿倍野**（☎06-6625-1771）へお願い致します。
◉**神道博物館教養講座**は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは☎0596-22-6471へお願い致します。
◉**史料編纂所公開講座・古文書講座**は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは☎0596-22-6466へお願い致します。
◉その他お問い合わせは、**皇學館大学地域連携推進室**（☎0596-22-8635）へお願い致します。

編集後記

「教育の最大の目標は知識ではなく行動である」とは英国の思想家・ハーバート・スペンサーの言葉。三月十九日、本学記念講堂において平成二十九年度学位記・修了証書授与式が執り行われました。学び舎での日々を振り返り、六九九名の脳裏にはどのような思いが去来したでしょうか。いずれの道に進むにせよ、本学で得た経験と学びの成果を実践に生かし、大いに活躍していただきたいと思います。皆さんのご卒業・修了を、心よりお祝い申し上げます。【企画部】

【訂正とお詫び】 前号72号・4面に誤りがありました。ここに訂正し、お詫びいたします。誤 山下龍星 ➡ 正 山本龍星

平成29年度 卒業記念ミュージカル「レクス王子とふしぎなえほん」

伝統の〝手作りミュージカル〟熱演

教育学部四年生有志による卒業記念ミュージカルが二月二十五日に津市の三重県総合文化センター大ホール、三月三日・四日に本学記念講堂で開催された。三十二回目となる今年の演目は「レクス王子とふしぎなえほん」。学生たちは教育学科伝統の〝手作りミュージカル〟を心一つに熱演し、子どもやその保護者から盛んな拍手が送られた。

先輩たちから代々受け継いできた手作りのミュージカル。その思いに応えるように、熱のこもった演技で観衆を魅了した

作品のテーマに思い重ねて

毎年好評を博している教育学部四年生有志による卒業記念ミュージカルが二月二十五日（津会場）、三月三・四日（伊勢会場）に開催され、のべ二千三百人の観客を動員した。

今回の演目は「レクス王子とふしぎなえほん」。自分は弱くて何もできないと思っている主人公・レクス王子が迷い込んだ絵本の中で仲間と出会い、勇気を持つ大切さや一人じゃないことに気付き成長していくオリジナルストーリーだ。

実行委員長を務めた児玉美咲さんは「劇中歌に『自分や仲間を信じて一歩踏み出せば、必ず世界は変わる』といった歌詞がありますが、まさに私たちが伝えたかったメッセージそのもの」と作品への思いを語る。そして自らを振り返り、「率先して人を引っ張るタイプではないので実行委員長を引き受けるか迷いがあったが、友人やゼミの先生から『大丈夫だよ。やってみたら！』と背中を押され、勇気を出して挑戦したらこんなに素晴らしい経験ができた」と実感を込めて話した。

「委員長という経験を通して身に付いた度胸やコミュニケーション力を社会人になっても生かしたい」と話す児玉さん

幼き日に見た舞台を娘にも

「毎年親子で観に来ます」と話すのは伊勢市内の女性だ。「私自身、子どもの頃観に来ていて、迫力あふれる舞台に引き込まれました。娘も同じく楽しみにしているのを見ると、感慨深いものがあります」と嬉しそうに語った。八歳の息子さんと五歳の娘さんを連れた伊勢市内の女性は「童謡やディズニーソングなどよく知られた歌が使われていたり、キャストが会場に降りて演じたり、子どもを飽きさせない工夫が満載でした」と感心しきり。レクリエーション部に所属する奥田七彩さん（教育二年）は「わかりやすいテーマ設定や子どもたちの目をしっかり見て演じていた点など、とても参考になります」と話していた。

人数が約七十名と例年より少なく、班を掛け持ちして取り組んだメンバーも多かったという今回。それでも妥協はしたくないと、納得のいくまで練習を重ね迫力の生演奏で舞台を盛り上げた音楽班、アイデアを凝らした衣装でキャストの魅力を引き出した衣粧・班等、メンバー全員が気持ち一つに創り上げたミュージカルに、観衆は惜しみない拍手を送った。

皇居勤労奉仕団活動報告

ねぎらいの御言葉を賜り感激

奉仕団代表　扇野　耕多（国史学科三年）

皇學館大学の皇居勤労奉仕は昭和五十一（一九七六）年から行われており、長い歴史を有している。奉仕団は、皇居奉仕を通じて我が国、民族の歴史文化の淵源である御皇室と国柄への深い理解と、愛国心と恋闕心（れんけつしん）を滋養することを目的とした有志学生の集まりで、全学年学部学科を対象としている。今回は二月十九日から二十三日にかけての五日間に総勢三十三名が参加した。参加した団員は皆良く協力し、皇恩感謝の誠を捧げ皇居と赤坂御用地での清掃等の奉仕に励んだ。また、奉仕期間中には天皇皇后両陛下並びに皇太子殿下との御会釈の機会があり、皇居の蓮池参集所にて御会釈が行われ、天皇皇后両陛下からねぎらいの御言葉を賜った。両陛下は皇學館大学を御存知であらせられ、伊勢の事や神職の事について御下問があり、最後に再度ねぎらいの御言葉を賜った。さらに、赤坂御用地では東宮御所にて御会釈があり、皇太子殿下から学生生活が有意義であるようにと御言葉を賜った。天皇皇后両陛下並びに皇太子殿下の御言葉を賜り団員の皆も恐懼感激（きょうくかんげき）であった。

皇居勤労奉仕は皇居に直接出向き、皇恩感謝の誠を捧げる事ができる数少ない機会の一つである。そのため、来年以降もより多くの学生が皇居勤労奉仕に参加する事を願う。

皇學館生が学生コース独占！

みえぎんビジネスプランコンテスト2017

「みえぎんビジネスプランコンテスト2017」に今年度新設された学生コース。同コースにおいて、現代日本社会学科の学生たちが応募したプランが最優秀賞、優秀賞、佳作に選ばれ、皇學館生が入賞を独占する快挙を成し遂げた。

最優秀賞に輝いたのは藤尾政嵩さん（現日三年）が代表を務める〈傘から生まれる「絆プロジェクト」〉。宇治山田駅前のショッピングセンターに忘れ物傘を配置し無料貸出するプランで、傘に広告を貼り付け運営費をまかなう。「ある日傘を持って出るのを忘れて、無料で使える傘が駅にあったら便利だと思った」とアイデアを思い付いたきっかけを語る藤尾さん。ビジネス化にあたっては傘の返却率や放置されるリスクについて指摘されたといい、「たくさんの方が相談に乗ってくださり、非常にありがたく、勉強になった」と話した。また、プロの意見を求め直接企業に連絡をとったり、現場へ足を運び実情を把握したことに触れ、「主体的に行動する大切さを学んだ」と語った。

優秀賞に選ばれた〈介護のための「止まり木カフェ」プラン〉は代表の鈴木歩実さん（同）が認知症の祖父母の介助を手伝う中で介護する側とされる側、また、介護者同士が気軽に話をし、情報共有できる場がほしいと感じたことが素になった。

佳作となった森本春那さん（同）のプラン〈古民家レンタル〉は放置されている空き家を個人ではなく地域の力で復活させ、宿泊施設として活用しようというもの。実家が不動産業を営んでいることもあり、空き家問題を深刻に受け止めていると語る森本さん。地域の課題を地域住民が我が事としてとらえ、知恵を出し合いながら地域の魅力発信へと繋げたい――そうした思いを形にした。

三月七日、四日市商工会議所で行われた表彰式に出席した現代日本社会学部の筒井琢磨教授は今回の受賞を受け、「学生らしい素直な発想をベースに専門家のアドバイスを取り入れ、練り上げていったチームプレーが功を奏したのでは」と評価。「アイデアで終わらせることなく、ぜひ実現に結びつけてほしい」と期待を込めた。

賞状を手に笑顔を見せる3人（左から、森本さん、藤尾さん、鈴木さん）

株式会社三重銀行頭取の渡辺三憲氏より表彰を受ける藤尾さん

みえぎんビジネスプランコンテスト2017結果　学生コース　受賞者

最優秀賞　賞金5万円
傘から生まれる「絆プロジェクト」
藤尾政崇【リーダー】　増地　光　山門大志

優秀賞　賞金3万円
介護のための「止まり木カフェ」プラン
鈴木歩実【リーダー】
河内瑞樹　島　はるか　別府優里

佳作　賞金1万円
古民家レンタル ～地域がデザインする家～
森本春那【単独】

K-らいふ

全学一体

Activity Report of 2017

平成29年度 活動報告

1-2● 退任によせて
2● 平成29年度出版物、平成29年度奨学金授与者 ほか
3● 研究開発推進センターレポート
●神道研究所 ●佐川記念神道博物館 ●史料編纂所
4● 皇學館の来歴
1-4● デキゴトロジー

退任によせて

平成二十九年度に退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

研究余話

文学研究科特命教授　毛利正守

若い頃は萬葉集に於ける字余り句に着目して、四五〇〇余首の短歌・長歌・旋頭歌にわたり単独母音をもつ字余り句と非単独母音の字余り句全般についてそれを解明することに没頭した。幸いにもこの地道な研究は、金田一京助博士記念賞を頂戴し、多少、報われた。時が移り、二十年ほど前であろうか中国の雲南省を大理から麗江、シャングリラなどのおきまりの観光コースをバスでめぐっていた時、ガイドさんが麗江のナシ族のしゃべる言葉は日本語に似ていると言ったのである。この何気ない一言をヒントに、わが国が漢語文化と邂逅した日本語の文章史における黎明期は、書記言語と口頭言語が異質な関係にあることをもとに、漢文体に対して「倭文体（やまとぶんたい）」という新たな研究に取り組むことができた。十回を超える麗江での調査では、ナシ族の人たちの素朴なやさしさに触れ、一度たりともお互いが感情を害するようなことはなかった。退職後、いつの日か御礼の旅に出かけたいと念じている。

皇學館大学の益々の御発展を祈念いたします。

学生とともに展覧会を開催できた喜びと感謝

研究開発推進センター・佐川記念神道博物館 学芸員・教授　岡田芳幸

昭和四十六年四月より学部・大学院の学生として六年間を倉田山で過ごし、その後十二年間を熱田神宮宝物館学芸員・文化研究員として奉仕の後、平成元年四月一日より皇學館大学神道博物館学芸員として奉職、二十九年の歳月が流れました。この間には平成四年の佐川記念神道博物館の開館に始まり、本学らしい博物館施設とするための試行錯誤や諸事業の開催、創立百三十周年記念の特別展覧会の開催など、瞬く間の歳月でした。まさしく邯鄲の夢のような心地ともいえます。その間、私の最も心に残るのは、平成十七年度より倉陵祭期間を含め四週間に亘り、毎年開催することができた博物館学芸員課程履修学生による企画展（卒業展示）を学生と共に実施しえたことです。展覧会を企画・立案し実施することは並大抵の努力ではできることではなかったと存じます。にもかかわらず学生達は見事な展示を毎年見せてくれました。その努力に敬意を表します。同時に展覧会開催に全力で協力してくださった事務局職員の方々にも満幅の感謝を申し上げます。ありがとうございました。

私は倉田山を去りますが、全学一体の皇學館大学は過去・現在・未来に亘り私の誇りでもあります。学園が益々隆昌されますことを蔭ながら祈りつつお別れいたします。

教師とは何と素敵な仕事なのだと実感

中学校教諭　馬場裕一

八年間、お世話になり、支えてくださった中学校・高等学校の教職員の皆様、学校関係者の皆様、生徒の皆さんには感謝の念に堪えません。そして、神道の精神を中心とした素晴らしい教育環境と熱心な先生方の中で過ごせたことを誇りに思います。

中学生から高校生まで、幅広い年代の生徒たちを担当させていただき、さまざまな感動がありました。勉強に、部活動に、学校行事にと一生懸命取り組み、充実した表情を見ることができた感動、まぶしいほどの笑顔や悔しさをかみしめる涙を見た感動、なかでも、卒業に際して生徒たちから言われた「ありがとう」には、心の底から感動しました。教師とは何と素敵な仕事なのだと改めて実感しています。

皇學館で過ごした思い出と経験は、きっといつまでも私の胸にあり、未来を後押ししてくれると確信しています。四月からは、実家のあるさいたま市で神明奉仕をいたします。お近くにいらした際には、ぜひお声がけください。

ありがとう、皇學館

事務局長　西谷豊

停年退職の日を迎えるにあたって今までのことを振り返ると二つのことを思い出す。一つは皇學館に入職が決まったとき、親しい友人から、「同期で一番皇學館らしくない奴が母校に残ったなあ」と言われて本当にそうだと思った。若い頃、自分は何でもやれるとの変な自信と傲慢さがあって（今でもそうだと突っ込む人がいるかも）周りに迷惑ばかりかけていた。一つは管理職になって、上司や部下とぶつかることが多く悩んでいた時に別の友人から、「人は優しくなければならないよ」と助言されて、その通りだと思った。

何事にも不出来な私を、鷹揚に長い時間をかけて育てていただきました。

ありがとう、皇學館。

教職員人事

平成30年3月31日付

大学

退職

文学部教授	深津　睦夫
文学部特別教授	半田　美永
文学研究科特命教授	毛利　正守
教育学部教授	小孫　康平
教育学部准教授	元塚　敏彦
教育学部助教	小幡　章子
現代日本社会学部教授	山路　克文
研究開発推進センター教授	岡田　芳幸
事務局長	西谷　豊
法人本部監査室室長	前田　和宏
学生支援部事務嘱託（寮長）	營田　友美
学生支援部事務嘱託（寮母）	浜地　幸代

高等学校

退職

高等学校教諭	村崎　孝
高等学校教諭	平野　昌也
高等学校常勤講師	上野　哲八
高等学校常勤講師	藤原　信夫
高等学校常勤講師	堀山　玄太
高等学校常勤講師	横井　正典
高等学校常勤講師	勢力　稔

※H29・7・31退職

中学校

退職

中学校教諭	馬場　裕一
学校事務部学校事務室（技術嘱託）	広垣　智加
学生支援部教職アドバイザー（事務嘱託）	高山　智

平成29年度 デキゴトロジー 行事日誌

大学

4月

- 1日 ●共催講座 1日・短期講習会〈伊勢参宮（餅）街道と菓子〉岡田登（非常勤講師〈元国史・教授〉）
- 4日 ●入学式
- 8日 ●共催講座〈古事記』を読み解く／開化天皇〉白山芳太郎（神道・教授）
- 11日 ●春学期通常講義開始 ～7月31日 通常講義終了
- 15日 ●共催講座 1日・短期講習会〈古文書を読もう ―浪人となった或る戦国武将の悲哀―〉岡野友彦（国史・教授）
- 17日 ●月例神宮参拝
- 22日 ●共催講座〈神道と仏教」―1868年4月〉河野訓（神道・教授）
- 27日 ●神道学会総会、国文学会総会、史學會総会、コミュニケーション学会総会、教育学会総会、現代日本学会総会
- 30日 ●創立記念日

5月

- 6日 ●月例文化講座①〈三国志とその後の倭国〉堀内淳一（国史・准教授）
- ●共催講座 1日・短期講習会〈続日本紀を読む ～神宮再建～〉遠藤慶太（国史・准教授）
- 13日 ●共催講座〈『古事記』を読み解く／崇神天皇〉白山芳太郎（神道・教授）
- 17日 ●月例神宮参拝
- 18日 ●学友会役員会、公開総務委員会
- 20日 ●萼の会役員会
- 21日 ●萼の会総会・教育懇談会
- 25日 ●第43回現代日本塾〈夢を叶えるプロジェクト〉矢野達夫氏（介護付有料老人ホーム ウェルガーデンみその施設長）
- 27日 ●佐川記念神道博物館教養講座①〈学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅳ「野生動物の調査と保護」〉若林郁夫氏（鳥羽水族館 飼育研究部課長）
- ●共催講座 1日・短期講習会〈伊勢神宮 ―歴史の聖地・神話の聖地―〉櫻井治男（文学研究科教授）
- 28日 ●寮祭

6月

- 3日 ●月例文化講座②〈大宝律令と古代国家〉遠藤慶太（国史・准教授）
- 10日 ●研究開発推進センター史料編纂所古文書講座〈第1回「古代文書を読む」〉荊木美行（研究開発推進センター副センター長・教授）
- ●共催講座〈『古事記』を読み解く／垂仁天皇（上）〉白山芳太郎（神道・教授）
- 11日 ●オープンキャンパス
- ●三重県生涯学習センター×皇學館大学×志摩市協働講座〈田山花袋「志摩めぐり」の風景〉【第1部 講演】小堀洋平（国文・助教）、【第2部 対談】小堀洋平・竹内嘉治氏（志摩なぎさ企画会長）
- 17日 ●月例神宮参拝
- 22日 ●第44回現代日本塾〈憲法と現代日本〉西修氏（駒澤大学名誉教授）
- ●神道学科・神道学会共催講演会〈大祓詞と建国の理念〉西岡和彦氏（國學院大學神道文化学部教授）
- 24日 ●共催講座〈「神道と仏教」―霧島神宮における神仏習合と神仏分離〉河野訓（神道・教授）
- ●佐川記念神道博物館教養講座②〈学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅳ「中世 四日の市と道 ～常設展示リニューアルの成果と課題」〉田中伸一氏（四日市市立博物館 学芸員）
- 25日 ●国文学会 文学散歩〈しほさゐ浪漫〉
- 29日 ●チャレンジプロジェクト公開プレゼン
- 30日 ●祭式研究部主催 夏越大祓式

7月

- 1日 ●共催講座 1日・短期講習会〈皇室の基礎知識〉松本丘（神道・教授）
- 6日 ●月例文化講座③〈神宗の伝来〉多田實道（国史・准教授）
- 7日 ●史學會歴史散歩〈古代～現代日本を繋げる世界遺産「熊野古道」〉
- ●研究開発推進センター神道研究所公開学術講演会〈近世神道から国学〉前田勉氏（愛知教育大学教授）
- 8日 ●第10回皇學館大学人文学學會大会
- ●共催講座〈「古事記」を読み解く／垂仁天皇（下）〉白山芳太郎（神道・教授）
- ●研究開発推進センター史料編纂所古文書講座〈第2回「古代文書を読む」〉荊木美行（研究開発推進センター副センター長・教授）
- 15日 ●オープンキャンパス
- 22日 ●共催講座〈「神道と仏教」―十津川村における神仏分離〉河野訓（神道・教授）
- ●保護者対象 就職講演会・説明会
- 23日 ●夏休み親子教室〈ミニ源氏物語絵巻を作ろう！〉
- 27日 ●第45回現代日本塾〈メディアが報じない封印された日本近現代史〉井上和彦氏（ジャーナリスト）
- 29日 ●共催講座〈『古事記』を読み解く／景行天皇（上）〉白山芳太郎（神道・教授）
- ●ふるさと講座〈観阿弥と楠正成 ―中世伊賀・大和・河内・和泉の豪族層―〉岡野友彦（国史・教授）

8月

- 4日 ●みえアカデミックセミナー2017〈人とつながる、本でつながる ～本の魅力と可能性を地域のなかで考える～〉岡野裕行（国文・准教授）
- 5日 ●共催講座〈『日本書紀』を読む／神武天皇1 ―日向出発―〉大島信生（国文・教授）
- 20日 ●海外インターンシップ（マレーシア） ～25日
- 21日 ●心游舎ワークショップ〈お花神饌づくり〉

平成29年度 学長奨励賞 受賞者

個人18名、団体４件

駅伝競走部　団体
秩父宮賜杯第49回全日本大学駅伝対校選手権大会出場、17位（11／5）

中村勇貴　神道学科三年　個人
第56期学友会総務委員長

硬式庭球部（女子）　団体
東海大学対抗テニスリーグ二部昇格

排球部（男子）　団体
東海リーグ一部昇格、三重県リーグ一部春季・秋季ともに優勝

田中貴子　現代日本社会学科四年　個人
皇學館大学大学生テレビ局局長、経済産業省共催「平成28年度社会人基礎力グランプリ」東海大会優勝・全国大会出場　ほか

柔道部　団体
全日本学生柔道体重別団体優勝大会東海選考会3位（9／3）、全日本学生柔道体重別団体優勝大会出場（10／28・29）、第64回東海学生柔道夏季優勝大会準優勝（5／21）、全日本学生柔道優勝大会出場（6／24・25）、第24回東海学生女子柔道優勝大会三人制準優勝（5／21）、全日本学生柔道優勝大会出場（6／24・25）

歌代勇祐　教育学科四年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会3位（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

大木雅人　教育学科四年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会3位（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

辻本愛里奈　教育学科四年　個人
第34回東海学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

八幡大輝　現代日本社会学科四年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会優勝（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

浅井萌加　教育学科三年　個人
第34回東海学生柔道体重別選手権大会準優勝（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

井落竜大　教育学科三年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会準優勝（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

瀬古翔洋　教育学科三年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会準優勝（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

太郎丸裕平　教育学科三年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会準優勝（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

中村朱里　教育学科三年　個人
第34回東海学生柔道体重別選手権大会優勝（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）、講道館杯全日本柔道体重別選手権大会出場（11／11・12）

大山諒真　現代日本社会学科三年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会3位（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

加納成　国文学科二年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会3位（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

東翔陽　国史学科二年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会優勝（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

南里方紀　現代日本社会学科二年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会準優勝（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

山下洸樹　現代日本社会学科二年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会3位（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）、全日本ジュニア柔道体重別選手権大会東海地区予選会優勝（7／9）、全日本ジュニア柔道体重別選手権大会出場（9／9・10）

衛藤力也　国史学科一年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会準優勝（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

元嶋大貴　教育学科一年　個人
第36回東海学生柔道体重別選手権大会3位（8／27）、全日本学生柔道体重別選手権大会出場（9／30、10／1）

平成二十九年度 奨学金授与者

学内奨学金授与

●給付奨学金（十万円）
国文学科三年　中下　美沙
国史学科三年　安垣　友貴
教育学科三年　打田　彩夏
現代日本社会学科三年　山口　理喜

●岡田奨学金（十万円）
国史学科四年　井村　直暉
教育学科三年　鈴木　優里
現代日本社会学科二年　内山裕加里
教育学専攻修士課程二年　矢野　壮馬
国文学専攻博士後期課程三年　管　浩然

●館友会奨学金（十万円）
神道学科三年　熊谷友紀子
国文学科三年　山中麻友香
国史学科三年　渡邉宗一郎
コミュニケーション学科三年　白田　優果
教育学科三年　森　友佳子
現代日本社会学科三年　中川　莉緒

●長谷奨学金（十万円）
神道学科四年　江﨑　義訓
神道学科三年　勝部　美結

●慶光院俊奨学金（十万円）
神道学科四年　西田日向子
神道学科三年　西尾帆乃夏

●安部奨学金（十万円）
神道学科四年　飯田　航
神道学科三年　山内　響貴
神道学科二年　松本　航佑
専攻科一年　三田　雄士

●萼の会教育奨励賞（図書カード三万円分）
神道学科四年　海野　亮太
国文学科四年　橘　あずさ
国史学科四年　髙林　杏子
コミュニケーション学科四年　橋本真梨子
教育学科四年　皿屋　真里
教育学科四年　福井　菜央
現代日本社会学科四年　大谷　愛乃
神道学科三年　大原　魁刀
国文学科三年　坂井　万桜
国史学科三年　寺本　優太
コミュニケーション学科三年　多湖　優花
教育学科三年　片岡みずき
教育学科三年　舟橋亜央衣
現代日本社会学科三年　平谷亜都子
神道学科二年　杉本　秀司
国文学科二年　堀井　美里
国史学科二年　前川　莉奈
コミュニケーション学科二年　加藤　瞳
教育学科二年　太田　裕真
教育学科二年　山中　優花
現代日本社会学科二年　鈴木　里佳

学外奨学金授与

◆神社本庁育英奨学生（三十万円）
神道学科四年　鈴本　真子

◆伏見稲荷奨学金（二十四万円）
神道学科三年　福家　和也
神道学科三年　柳瀬　諒

◆神宮特別奨学金（二十万円）
神道学科四年　阿竹　健二
神道学科三年　中村　勇貴

◆全国敬神婦人連合会奨学金（十五万円）
教育学科二年　太田　裕真
教育学科二年　山中　優花
現代日本社会学科二年　鈴木　里佳

◆八坂神社奨学金（十万円）
大学院文学研究科国史学専攻博士前期課程二年　安部　玄将

神宮御師資料第二輯 外宮篇 一
研究開発推進センター史料編纂所編
A5判・138頁　本体価格2000円＋税
外宮の師職取調張のうち、二俣町・中島町・八日市場町・宮後町・一之木町・尾上町を収録。あらためて原本と照合し、旧版を訂正・改版。

過疎地に生きる（増補改訂第5版）
山上賢一 著　A5判・224頁　本体価格1715円＋税
過疎地に生きる人たちの生活の様子を経済、文化、福祉、歴史などの面から論述した本である。

教育方法学 ―学習課題で学ぶ―
小孫康平 著　A5判・153頁　本体価格1016円＋税
子供の資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的知識・技能について解説した。

教育の探求と実践
皇學館大学教育学部 編
A5判・320頁　本体価格2050円＋税
教育学部開設十周年記念論集。新たな教育観・教育方法が求められる教育界に貢献を期し、最先端の学術的、実践的論考を集約した研究書。

講演叢書 第167輯
文学を旅するには？
文学部准教授　岡野裕行 著
B6判・本体価格477円＋税

平成29年度 皇學館大学出版部 新刊書籍のご案内
平成29年度に出版された新刊本のご紹介です。

ご注文の際は下記へ、お電話またはFAXにてご連絡ください。
TEL・FAX 0596-22-6320 皇學館大学出版部
●書名・冊数・住所・氏名・電話番号をお知らせください。
●お支払いは郵便振込にてお願いします。
●別途送料（400円）をご負担いただきますので、ご了承ください。

9月
26日　●共催講座　1日・短期講習会〈なぜ、若者は熊野を目指すのか？～聖地巡礼の現代的な変容から～〉板井正斉（教育開発センター准教授）
27日　●萼の会地区別教育懇談会（伊勢会場）
●萼の会地区別教育懇談会（浜松・津会場）

10月
2日　●萼の会地区別教育懇談会（名古屋・名張会場）
●共催講座〈日本書紀」を読む／神武天皇2 ―熊野上陸―〉大島信生（国文・教授）
3日　●萼の会地区別教育懇談会（神戸・四日市会場）
5日　文・現フィールドワーク～19日
●萼の会地区別教育懇談会（福岡会場）
9日　●月例文化講座④〈秀吉の「朝鮮出兵」と「三国国割構想」〉岡野友彦（国史・教授）
●共催講座〈「古事記」を読み解く／景行天皇（下）〉白山芳太郎（神道・教授）
10日　●地（知）の拠点整備事業公開シンポジウム
●研究開発推進センター史料編纂所古文書講座〈第1回「近世文書を読む」〉谷戸佑紀（研究開発推進センター共同研究員）
16日　●皇學館DAY2017
18日　GISday in 伊勢2017
20日　9月学位記授与式（卒業式）、入学式
21日　●秋学期通常講義開始
22日　●研究開発推進センター史料編纂所公開講座〈『神宮御師資料』と史料編纂所〉荊木美行（研究開発推進センター副センター長・教授）〈編纂所所蔵の福嶋御塩焼大夫文書について〉恵良宏（皇學館大学名誉教授）〈八幡朝見神社所蔵の福嶋御塩焼大夫文書について〉窪寺恭秀（研究開発推進センター共同研究員）
23日　●共催講座〈「神道と仏教」―淡路島・伊弉諾神宮をめぐる神仏習合と神仏分離〉河野訓（神道・教授）
30日　●共催講座〈「日本書紀」を読む／神武天皇3 ―大和平定―〉大島信生（国文・教授）

11月
2日　●第46回現代日本塾〈若者のためのまちづくり〉服部圭郎氏（明治学院大学経済学部教授）
5日　●共催講座　1日・短期講習会〈海外から見た4―5世紀の倭国〉堀内淳（国史・准教授）
7日　●NIPPONの原点を学ぶ三重の魅力発信セミナー〈本居宣長の道まなび―伊勢商人の風土が生んだ世界的学問〉菅野覚明（神道・教授）
13日　●月例文化講座⑤〈坂本龍馬と討幕〉松浦光修（国史・教授）
14日　●共催講座〈「古事記」を読み解く／成務天皇～仲哀天皇（上）〉白山芳太郎（神道・教授）
17日　●神嘗祭神宮参拝
17日　●佐川記念神道博物館教養講座③〈学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅳ「伊勢地方と曾我蕭白」〉道田美貴氏（三重県立美術館学芸普及課長代理）
21日　●共催講座　1日・短期講習会〈「物の哀れ」と神―本居宣長の思考―〉板東洋介（神道・准教授）
22日　●高校生英語スピーチコンテスト
25日　●皇學館大学・ケント大学学術交流シンポジウム「巡礼地とコミュニティー」
28日　●共催講座　1日・短期講習会〈「伊勢参宮名所図会」を読む―京三条橋～粟田口―〉岡野友彦（国史・教授）
29日　●国文学会研究発表会
●倉陵祭（～29日　※29日は台風接近のため講演会のみ実施）・オープンキャンパス
●倉陵祭講演会〈世界からのメッセージ～人間愛と絆～〉渡部陽一氏（戦場カメラマン・フォトジャーナリスト）
2日　●寮主催教育講演会〈部下の命を預かるとは〈良きリーダー（指揮官）になるために〉〉渡部年晴（精華寮寮長）
4日　●学友会主催倉田山清掃
9日　●史學会研究発表会
11日　●月例文化講座⑥〈転換期としての大正時代〉谷口裕信（国史・准教授）
16日　●神道学会研究発表会
●コミュニケーション学会講演会〈大学の学びが全ての礎：仕事で求められる語学力と語学以外の力〉後藤希望氏（名古屋外国語大学准教授）
●第8回現代日本学会記念講演〈近代日本の福祉思想―ヘレン・ケラーと岩橋武夫、そして留岡幸助―〉室田保夫氏（京都ノートルダム女子大学特任教授・関西学院大学名誉教授）
●国文学会講演会〈海を渡った日本語のその後 ―宜蘭クレオールの誕生―〉真田信治氏（大阪大学名誉教授）
●史學會講演会〈和紙の歴史〉湯山賢一氏（神奈川県立金沢文庫・東大寺ミュージアム館長）
17日　●月例神宮参拝
18日　●共催講座〈「古事記」を読み解く／仲哀天皇（下）〉白山芳太郎（神道教授）
●研究開発推進センター史料編纂所古文書講座〈第2回「近世文書を読む」〉谷戸佑紀（研究開発推進センター共同研究員）
●ふるさと講座〈観阿弥の伊賀創座説をめぐって〉深津睦夫（国文・教授）
23日　●教育学会「教育エキスポ2017」
25日　●共催講座〈「神道と仏教」―生田神社における神仏習合と神仏分離〉河野訓（神道・教授）
●佐川記念神道博物館教養講座④〈学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅳ「伊勢神宮と日本文化」〉河合真如氏（前神宮徴古館農業館館長）
26日　●みえアカデミックセミナー2017移動講座〈熊野古道と慶光院清順上人〉岡野友彦（国史・教授）

研究開発推進センターレポート

平成二十五年四月に発足して以来、地域の知の拠点としての役割にさらなる期待がかかる「研究開発推進センター」。平成二十九年度の活動を報告します。

神道研究所

儒家神道から国学への展開を考察――公開学術講演会

公開学術講演会「近世神道から国学へ」（前田勉愛知教育大学教授）が、平成二十九年七月七日（金）に、本学四号館四三一教室で開催され、一二〇人が参加した。

前田先生は、江戸時代に儒学と結びついた神道思想である儒家神道に注目し、本居宣長の国学への展開を「儒学の〝合理主義〟から国学の〝非合理主義・不可知論〟への展開」とする通説を表面的な解釈であると評され、儒学が神道と結びついた根本的な疑問から、宣長が儒家神道のどのような観念を「漢意（からごころ）」として批判していたのかについて講じられた。また先生は、国学への展開には、江戸時代における商品経済の発展・貧富の差等の社会経済現象が影響していると述べられ、「江戸時代の歴史状況の中で儒家神道から国学への展開を捉えるべきだ」と講じられた。

この講演の内容は、『皇學館大学研究開発推進センター紀要』第五号に収録予定である。

神道における道教の影響に迫る――公開学術シンポジウム

公開学術シンポジウム『神道における道教受容研究の現在』が、平成二十九年十二月十六日（土）に、本学佐川記念神道博物館講義室で開催され、三十二人が参加した。

古来、神道は中国や朝鮮半島から伝来した思想（仏教・儒教等）を受容・競合する中で展開してきた。中でも中国三教の一つである道教は、体系的な伝来は見られないものの、神道の中に少なからず影響を及ぼしてきたことで知られる。本会では道教研究の最前線で活躍する研究者らを招き、道教が神道にどのように受容されてきたのかについて議論した。各々の視点で語られる道教と神道の世界観は非常に濃厚であり、参加者にとって有意義な時間となった。発題者等は以下の通りである。

発題／二階堂善弘先生（関西大学文学部教授）「妙見・鎮宅霊符神と玄天上帝」、三浦國雄先生（四川大学教授）「吉田神道と『北斗本命延生経』」、田中文雄先生（真言宗豊山派総合研究院主任研究員）「慈雲と神道灌頂」、**司会・コメント**／松下道信（本学文学部准教授）

このシンポジウムの内容は、『皇學館大学研究開発推進センター紀要』第五号に収録予定である。

史料編纂所

御師の世界を堪能――公開講座、古文書講座

まずは、平成二十九年九月二十三日に開催された公開講座の話題から。今年度は、『神宮御師資料』第八輯の刊行を記念して、同書で飜刻した福嶋御塩焼大夫（ふくしまみさきだゆう）文書をテーマに、出版にかかわった先生方をお招きして話をうかがった。本センター副センター長の荊木美行が「史料編纂所と福嶋御塩焼大夫文書」と題して、編纂所の御師資料研究の歩みを紹介。ついで、『神宮御師資料』第七・八輯の刊行に尽力された窪寺恭秀氏（研究開発推進センター共同研究員）と恵良宏氏（本学名誉教授）の両氏がそれぞれ「八幡朝見神社所蔵の福嶋御塩焼大夫文書」「福嶋御塩焼大夫文書の語るもの」と銘打って、福嶋御塩焼大夫文書の史料的価値やそれにもとづく御師の活動を語った。師弟の競演に、神道博物館講義室に集まった聴衆も、御師の世界を十分堪能した様子だった。

公開講座で講演する恵良先生

また、恒例の古文書講座だが、こちらも活況。前半は、荊木が古代文書の「解」を二回連続で取り上げ、後半は、共同研究員の谷戸佑紀氏が、史料編纂所所蔵の御師関係の古文書を利用して、愉しくてためになる知識を披露。九月から十二月にかけて三回開催された講座では、多数の「谷戸ファン」が詰めかけた。

このほか、編纂所がかかわってきた熱田本『日本書紀』の影印版全三冊も、平成二十九年十二月には八木書店から無事刊行。さらに、『日本後紀史料（稿）』の延暦十七年も、センター紀要第四号に掲載されるなど、編纂所にとって実りの多い一年だった。なお、熱田本『日本書紀』については、荊木が『神社新報』平成三十年二月二十六日号に「解説者が語る熱田本『日本書紀』影印の刊行」と題する一文を寄せた。興味のあるかたはご高覧を乞う次第である。　荊木美行

佐川記念神道博物館

学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅳ――教養講座

平成二十九年度は、前年度に続いて「学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅳ」のテーマのもと、左記の四回を実施した。

第一回　五月二十七日　三十二名受講
「野生動物の調査と保護」
講師　若林郁夫先生
鳥羽水族館飼育研究部課長
鳥羽水族館のスナメリや志摩半島野生動物研究会のウミガメなど、野生動物調査の現状と保護活動についてお話しいただいた。

第二回　六月二十四日　二十六名受講
「中世　四日の市と道～常設展示リニューアルの成果と課題」
講師　田中伸一先生
四日市市立博物館学芸員
常設展示リニューアルにともなって、中世の四日市場の様子がどのようであったのかを再現された、その成果をご紹介いただいた。

第三回　十月二十一日　四十九名受講
「伊勢地方と曾我蕭白」
講師　道田美貴先生
三重県立美術館学芸普及課長代理
江戸時代中期の絵師・曾我蕭白の生涯と伊勢との関わり、伊勢遊歴の際に描いた作品等についてご紹介いただいた。

第四回　十一月二十五日　六十二名受講
「伊勢神宮と日本文化」
講師　河合真如先生
前神宮徴古館・農業館・せんぐう館館長
皇大神宮（内宮）の神域内の紹介を通じて、日本文化あるいは日本人の叡智について含蓄のあるお話をいただいた。

◆　◆　◆

平成三十年度からは、「伊勢学事始」という全体テーマにて、引き続き伊勢及びその周辺の歴史・文化・地域性等を採り上げ講座を開催する予定である。

教養講座の他、毎年恒例の行事として、七月二十三日（日）、夏休み親子教室を開催し、好評を博した（詳細は学園報第六十九号）。

平成二十九年度　学芸員課程卒業展示

博物館学芸員課程を履修する四年生による「卒業展示」。今年度は「鏡　不思議の国にごSHOW待（たい）～小田文雄・恵良宏コレクションを中心に～」と題して、十月二十八日から十一月二十五日まで開催。

会期中には四〇二名の方にご来場いただき、倉陵祭開催日（十月二十八日）および最終日には、学生による展示解説も行われた。

平成30年度　教養講座のご案内

テーマ　伊勢学事始Ⅰ

第1回　5月26日(土)
伊勢とことわざ
講師●本学教育開発センター長・文学部教授　齋藤　平先生

第2回　6月23日(土)
地域資源としての伊勢周辺の自然環境
講師●本学教育開発センター准教授　近藤玲介先生

第3回　10月20日(土)
伊勢志摩から考える これからの地域コミュニティ
講師●本学教育開発センター准教授　千田良仁先生

第4回　11月24日(土)
伊勢における商人の町　河崎
講師●伊勢河崎商人館事務局長　西城利夫先生

時間●午後2:00～　**参加費無料**
会場●皇學館大学　佐川記念神道博物館講義室
定員●各60名（定員になり次第締め切ります）

申込方法
電話またはご来館の上、直接お申し込み下さい
皇學館大学　佐川記念神道博物館
☎0596-22-6471

高校

4月
- 8日　始業式
- 10日　第55回入学式
- 12日　対面式・1年生神宮参拝
- 1年生オリエンテーション～14日
- 1年生スタディーサポート
- 遠足
- 19日　創立記念日
- 30日

5月
- 7日　3年保護者対象進路説明会
- 13日　第1回公開授業
- 保護者会・後援会総会

中学

4月
- 6日　始業式
- 7日　入学式
- 10日　対面式
- 11日　1年生オリエンテーション～12日
- 1年神宮参拝
- 12日　クラブ紹介
- 18日　3年生全国学力調査
- 21日　第1回実力テスト
- 30日　創立記念日

5月
- 13日　保護者会・後援会総会
- 18日　校友会総会
- 20日　中体連春季大会～21日

12月

- 2日　研究開発推進センター史料編纂所古文書講座〈第3回「近世文書を読む」〉谷戸佑紀（研究開発推進センター共同研究員）
- 9日　月例文化講座⑦〈第二次世界大戦への岐路―三国同盟と松岡洋右―〉田浦雅徳（国史・教授）
- 14日　共催講座〈「古事記」を読み解く／応神天皇㈠〉白山芳太郎（神道・教授）
- 16日　皇居勤労奉仕団結団式
- 月例神宮参拝
- 研究開発推進センター神道研究所公開学術シンポジウム〈神道における道教受容研究の現在〉
- 17日　共催講座　1日・短期講習会（風土記からみた古代地方の神話と伝説）橋本雅之（現日・教授）
- 21日　三重大学・皇學館大学合同シンポジウム
- 23日　第47回現代日本塾（日本史がおもしろくなる日本酒の話）上杉孝久氏（日本酒プロデューサー）
- 25日　共催講座〈「神道と仏教」―施福寺における神仏習合と神仏分離〉河野訓（神道・教授）
- 秋学期通常講義閉講

1月

- 9日　秋学期通常講義再開
- 11日　月例神宮参拝
- 学長年頭講話
- 13日　共催講座〈「古事記」を読み解く／応神天皇㈡〉白山芳太郎（神道・教授）
- 大学入試センター試験～14日
- 18日　鈴木健一伊勢市長講演
- 20日　共催講座〈「日本書紀」を読む／綏靖天皇～開化天皇〉大島信生（国文・教授）
- 25日　第48回現代日本塾（身近な財政～給付と負担～）黒田浩二氏（財務省東海財務局津財務事務所長）
- 26日　山路克文現代日本社会学部教授退任記念最終講義（私と社会福祉―医療福祉問題にかかわって25年―）
- 27日　深津睦夫国文学科教授退任記念講義（伊勢新名所絵歌合について）、深津睦夫教授を囲む会
- 岡田芳幸研究開発推進センター教授退任記念講演会（宝物（文化財）保護思想の形成と展開）
- 共催講座〈神道と仏教〉―善峰寺における神仏習合と神仏分離〉河野訓（神道・教授）
- 出寮式

2月

- 3日　共催講座　1日・短期講習会（『伊勢参宮名所図会』を読む―日岡嶺～大津・走井―）岡野友彦（国史・教授）
- 10日　共催講座〈「古事記」を読み解く／応神天皇㈢〉白山芳太郎（神道・教授）
- 11日　建国記念の日・神宮参拝
- 17日　共催講座〈「日本書紀」を読む／崇神天皇(1)〉大島信生（国文・教授）
- 19日　教・現フィールドワーク～3月12日
- 25日　皇居勤労奉仕～23日
- 教育学部卒業記念ミュージカル「レクス王子とふしぎなえほん」津公演

3月

- 3日　共催講座　1日・短期講習会（古事記と日本書紀における相違点について）毛利正守（文学研究科教授）
- 5日　教育学部卒業記念ミュージカル「レクス王子とふしぎなえほん」伊勢公演～4日
- 海外インターンシップ（中国）～9日
- 10日　共催講座〈「古事記」を読み解く／応神天皇㈣〉白山芳太郎（神道・教授）
- 17日　共催講座〈「日本書紀」を読む／崇神天皇(2)〉大島信生（国文・教授）
- 19日　学位記・修了証書授与式（卒業式）
- 24日　共催講座〈「神道と仏教」―英彦山における神仏習合と神仏分離〉河野訓（神道・教授）
- 三重県・奈良県・島根県・皇學館大学連携シンポジウム〈神話を旅する～日が昇る聖地から日が沈む聖地へ～〉
- 27日　開寮日
- 29日　入寮日
- 30日　入寮式
- 31日　共催講座　1日・短期講習会（『続日本紀』と『萬葉集』）遠藤慶太（国史・准教授）
- 新入生登学日

皇學館の来歴 20

神宮皇學館大學の開学

―昭和十五年日本の大学と神宮皇學館大學予科の開設―

皇學館大学名誉教授　渡辺　寛

昭和十五年（一九四〇）四月二十三日、勅令二百八十九号をもって神宮皇學館大學官制が公布施行され、文部省所管の官立大学としての神宮皇學館大學が誕生し、学部・附属専門部・予科のうち、まず予科が開設された。

○昭和十五年四月現在の大学

〔帝国大学〕

1 東京帝國大學　明治10年創立　法・医・工・文・理・農・経済の七学部

2 京都帝國大學　明治30年　理・工・法・医・文・経・農

3 東北帝國大學　明治40年　理・医・工・法文

4 九州帝國大學　明治43年　医・工・農・法文・理

5 北海道帝國大學　大正7年　農・医・工・理

6 京城帝國大學　大正13年　法文・医

7 台北帝國大學　昭和3年　文政・理農・医

8 大阪帝國大學　昭和6年　医・理・工

9 名古屋帝國大學　昭和14年　医・理工

〔官立大学〕

10 東京商科大學　大正9年

11 旅順工科大學　大正11年

12 新潟醫科大學　大正11年

13 岡山醫科大學　大正11年

14 熊本醫科大學　大正11年

15 千葉醫科大學　大正12年

16 金沢醫科大學　大正12年

17 長崎醫科大學　大正12年

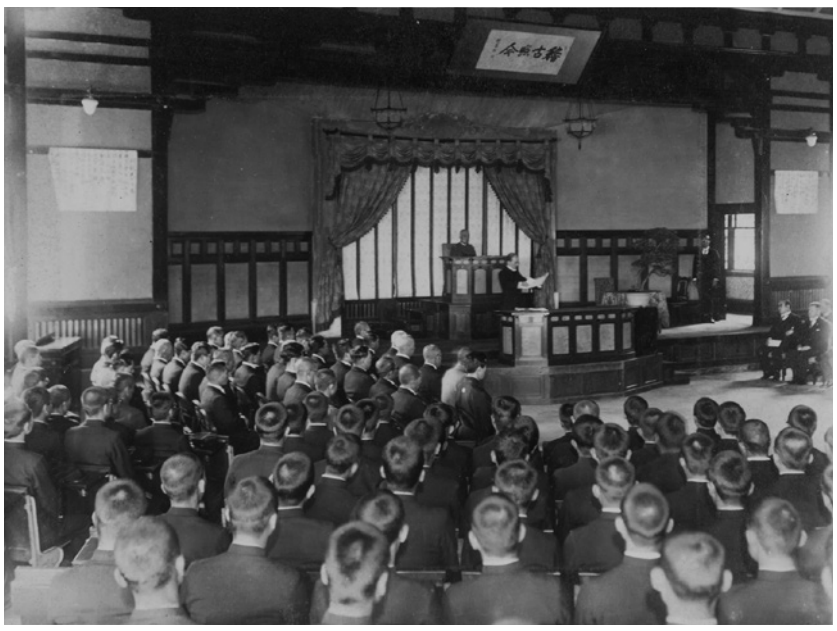
18 東京工業大學　昭和4年

19 神戸商業大學　昭和4年

20 東京文理科大學　昭和4年

21 広島文理科大學　昭和4年

22 神宮皇學館大學　昭和15年



神宮皇學館大學予科入学式並開校式

〔公立大学〕

23 京都府立醫科大學　大正10年

24 大阪商科大學　昭和3年

〔私立大学〕

25 慶應義塾大學　大正9年　文・経・法・医

26 早稲田大學　大正9年　政経・法・文・商・理工

27 法政大學　大正9年　法文・経

28 明治大學　大正9年　法・商

29 國學院大學　大正9年（文）

30 中央大學　大正9年　法・商・経

31 日本大學　大正9年　法文・商経・工

32 同志社大學　大正9年　文・法

33 東京慈恵會醫科大學　大正10年

34 満州醫科大學　大正11年

35 龍谷大學　大正11年（文）

36 大谷大學　大正11年（文）

37 専修大學　大正11年　法・経

38 立教大學　大正11年　文・商

39 關西大學　大正11年　法文・経

40 立命館大學　大正11年（法経）

41 拓殖大學　大正11年（商）

42 立正大學　大正13年（文）

43 駒澤大學　大正14年（文）

44 東京農業大學　大正14年

45 日本醫科大學　大正15年

46 高野山大學　大正15年（文）

47 大正大學　大正15年（文）

48 東洋大學　昭和3年（文）

49 上智大學　昭和3年　文・商

50 關西學院大學　昭和7年　法文・商経

51 藤原工業大學　昭和14年

52 東亜同文書院大學　昭和14年（商）

以上、帝国大学（九校）、官立大学（十三校）、公立大学（二校）、私立大学（二十八校）、総計五十二校であった。尚、創立年については大学令等にもとづいて大学となった年である。より詳細は『皇學館大學百三十年史』（資料篇二）所収の「旧制大学一覧」（昭和二十年八月現在）を参照されたい。

○神宮皇學館大學予科の設置

昭和十五年四月開学された神宮皇學館大學においてまず開設されたのは予科であった。

当時の学制においては中等教育（中学校・高等女学校・実業学校・師範学校）をおえて高等教育の最高学府大学への進学は大学学部の前段階として高等学校があり大学予科があった。高等学校は、昭和十五年現在で官立二十八校（宮内省所管の学習院高等科をふくむ）・公立三校・私立四校、計三十五校があり、この高等学校を卒業した者は主として帝国大学の学部に進学した。

また一部の帝国大学（北海道と京城）と官立大学公立大学の多くは学部のもとに予科をもち、予科を修了して学部に進むことになっていた。私立大学はすべての大学が予科をもっていた。このように当時は大学の前提として高等学校卒業、あるいは大学予科修了が必要であった。但し、東京帝國大學と京都帝國大學以外の大学では専門学校・大学専門部からの入学を認めており、東京文理科大学と広島文理科大学はその下部に東京高等師範学校・広島高等師範学校があり、そこからの進学がほとんどであった。

山田孝雄学長兼館長

以上述べた当時の高等教育機関の大学・大学予科・高等学校・専門学校は、昭和二十二年（一九四七）制定の教育基本法・学校教育法にもとづく現在の制度とは大きく異なる。あえて蛇足的解説を加えたのは読者の誤解を恐れてのことである。

神宮皇學館大學発足にあたっては多くの官立大学がそうであったようにまず予科を開設した。

「官制」公布に先立ち昭和十五年三月、神宮皇學館大學開設の予算が帝国議会を通過し開学が確実となった時点で、十五年度の神宮皇學館本科及び普通科の募集は停止され、三月三十一日～四月二日大学予科の入学試験が行われた。定員六十名に対して志願者三百九十一名。四月六日、六十三名の合格者発表。

四月二十四日「官制」公布施行。同日付で前東北帝国大学教授山田孝雄博士が神宮皇學館大學学長兼神宮皇學館館長に、広島高等学校教授小西兵太郎氏が大学予科長兼予科教授に、神宮皇學館教授植村芳男（生徒主事）、同佐藤虎雄、同町田久一郎、同高橋峻、文部省嘱託片山泰雄の五教授、その他に助教授一名生徒主事補一名及び書記一名が発令された。

これより先の三月末日、昭和五年以来十年の永きに亘り神宮皇學館長の任にあり學館の拡充、神道界全体の向上、大学昇格にも尽瘁された平田貫一氏は退職願を提出、この日（四月二十四日）願に依り本職を免ぜられ、翌二十六日告別式をもって惜しまれつつ倉陵を離れられた。

翌四月二十七日山田学長兼館長着任。学内で着任式、ついで神宮に正式参拝。着任の車中記者団に学長就任の弁を問われ、「わが日本の教学は源を国体に発し日本精神を以て核心となす」。これを根本として新大学の教育に当たりたいと抱負を述べられ、就任式においてはさきの「国体」・「日本精神」に続けて「元来日本の学問といふものは人と国と学問とが一体のものである。その人との一体であることを身を以て体得するやうな学問をやって行かねばならぬ」と火を吐く如き烈々たる意気を以て在館学生を奨励訓戒せられた。

四月三十日は午前八時入学式、続いて学神祭、十時五十分より神宮祭主梨本宮守正王殿下御台臨のもとに開校式が挙行され、その学長式辞は

「（前略）惟フニ我国ノ教学万邦無比ノ国体ヲ源トシ日本精神ヲ核心トスル所ニ存スルノデアリマス此ノ事タルヤ全ク神宮皇學館建学ノ旨趣ト一致スル所デアリマシテ本大学創設ノ根本精神ハ実ニコヽニ存スルモノデアリマス即チ本大学コソハ唯単ナル大学ト其ノ選ヲ異ニスベキ特殊ノ大学トシテ真ニ学行一如ノ理想ヲ実現シ我国教育ノ根本ヲ樹立シ以テ国家ノ期スル教学ノ真ノ目的ヲ達成スベキ使命ヲ荷フモノトイフベキデアリマス」

（以下略）

ついで文部大臣告辞・内務大臣祝辞・神宮大宮司祝辞・神宮皇學館発展期成会代表祝辞が続いた。

（以下次号）

6月
- 16日 ●中間考査～19日
- 19日 ●校友会総会
- 26日 ●三重県高校総体～28日
- 29日 ●教育実習～6月16日

- 1日 ローズヒル校来校～6日
- 4日 1・2年保護者対象進路説明会
- 月次祭（神宮参拝）
- 16日 ●東海総体：三重県～18日

7月
- 1日 ●期末考査～6日
- 6日 ●校友会本部役員立会演説会
- 7日 ●人権学習Ⅰ
- 14日 クラスマッチ～15日
- 18日 保護者懇談会～19日
- 20日 終業式
- 21日 夏季休業開始～8月31日
- 24日 ●オーストラリア語学研修～8月6日

8月
- 19日 ●第12回皇學館中学校・高等学校英語スピーチコンテスト

9月
- 1日 ●始業式
- 地震避難訓練
- 2日 オープンスクールⅠ～3日
- 18日 ●皇學館DAY
- 20日 ●皇高祭～21日

10月
- 5日 ●中部私学大会～6日
- 8日 オープンスクールⅡ
- 11日 修学旅行～14日
- 17日 ●神嘗祭
- 18日 ●中間考査～21日
- 21日 ●三重県私学大会
- 30日 ●家庭に感謝する日

11月
- 9日 ●第2回公開授業
- 14日 校内実力テスト（1・2年）
- 19日 ●オープンスクールⅢ

12月
- 2日 期末・卒業考査～7日
- 15日 月次祭（神宮参拝）
- 16日 人権学習Ⅱ
- 19日 武道・バドミントン大会
- 20日 保護者懇談会～21日
- 22日 終業式
- 23日 冬季休業開始～1月8日
- 24日 ●皇學館みえこども學びプロジェクト

1月
- 9日 ●始業式・火災避難訓練
- 13日 センター試験～14日
- 25日 2年進路講話
- 30日 ●平成30年度入学試験

2月
- 1日 ●1年進路講話
- 6日 ●合格者発表
- 9日 建国記念の日の講演
- 11日 ●建国記念の日

- 1日 ●第53回卒業式
- 2日 学年末考査～7日
- 8日 2年進路ガイダンス
- 11日 ニュージーランド語学研修～20日
- 14日 人権教育講演会
- 19日 クラスマッチ～20日
- 23日 ●終業式
- 24日 ●春季休業開始～4月8日

6月
- 29日 ●中間考査～31日
- 31日 ●全校集会

- 3日 ●伊勢市連合陸上大会
- 12日 教育実習～7月2日
- 16日 月次祭神宮参拝
- 18日 授業公開
- 22日 第1回オープンスクール
- 1年生宿泊研修～23日

7月
- 4日 ●スポーツ大会
- 23日 夏季休業開始～8月22日
- 24日 ●課外授業～28日

8月
- 19日 ●小学生・中学生英語スピーチコンテスト
- 23日 授業開始
- 31日 第2回実力テスト

9月
- 1日 ●地震避難訓練
- 3日 第2回オープンスクール
- 11日 期末考査～14日
- 18日 ●皇學館DAY
- 24日 ●伊勢度会陸上大会～25日
- 26日 体育大会
- 30日 中体連秋季大会～10月1日

10月
- 2日 ●保護者懇談会①
- 3日 保護者懇談会②
- 4日 保護者懇談会③
- 5日 ●終業式
- 11日 秋季休業～10日
- 17日 始業式
- 21日 神嘗祭
- 30日 ●皇中祭～22日
- 家庭に感謝する日

11月
- 2日 ●第3回実力テスト
- 12日 第3回オープンスクール
- 14日 伊勢市連合音楽会
- 29日 中間考査～12月1日

12月
- 4日 ●スポーツ大会
- 6日 3年生修学旅行～8日
- 7日 2年生宿泊研修～8日
- 14日 校友会改選
- 15日 月次祭（神宮参拝）
- 18日 人権学習
- 24日 ●皇學館みえこども學びプロジェクト
- 冬季休業開始～1月5日

1月
- 6日 ●A日程入学試験
- 9日 授業開始・火災避難訓練
- 18日 人権講演会
- 19日 第4回実力テスト
- 24日 百人一首大会

2月
- 3日 ●B日程入学試験
- 9日 建国記念の日の講演
- 11日 建国記念の日
- 19日 学年末考査～22日

- 3日 ●高校進学説明会
- 12日 保護者懇談会～14日
- 15日 3年生を送る会
- 17日 卒業式
- 19日 終業式
- 20日 ●春季休業開始